

自らの言葉で「夢の形」を語り「ビジョン」は実現……………	6
「関東で第一位は前橋に隣接する吉岡町」……………	9
山本龍の行財政改革の原則……………	11
ごみを減らしてコスト減、市民に減量を呼びかけたら3億+1900万円の得……………	13
組織内部の効率化は聖域なし、効率化で浮かした予算を市民へ還元……………	14
公共空間は誰のもの？利用する市民が一番、使い方を知っている……………	14
アイデアがある人が使ってみたら如何、「三方よし」は今の官民連携……………	16
「三方よし」施設は市民開放を条件に民間移譲……………	18
前橋税収は不変……………	19
借入金残高、10年間で476億円の縮減……………	20
基金は減ったり増やしたり（使う為に貯めておく）……………	21
「まえばしID」による個人の意思が発揮される社会が実現すると、民主主義の形まで変わる……………	22
デジタル⇨幸せを阻む障壁からの解放……………	23
人命を救うために1分、1秒を短縮する努力……………	28
自治体が連携・補完し合ってエリア全体の暮らしを支える……………	30
明石市が中学校3年までの医療費無料化……………	32
前橋市はなんと高校3年生まで医療費無料……………	34
子育ての応援がしっかりとできている前橋だから安心……………	35
子供の未来へ投資してください……………	36
子どもの人権を守り、中立な立場で助言を……………	37
就労と結婚には明らかに関係性がある……………	41
TSMCが熊本に起こす波は前橋に来るか？未来を創る競争は全国で始まっている……………	42
何処にもないまちをつくらう！「特別」な価値があるまちに人は集まる……………	44
MAEBASHI PRIDE……………	47
同じ歴史はない、前橋学が歴史の誇りをつくる……………	48
襟には三つのビジョン、市長は「未来の形」を発信……………	49
前橋が「民力」で乗り越えてきた危機……………	51
歴史の復活、その緊急性は決して高くない、でもこの世代がなさねばならない取り組みだ……………	54
あと10年で前橋の歴史の街並みも整ってくるはず……………	56
前橋城の復活の意見も多く聞きます……………	56

ビジョンが地域に変革をもたらす.....	58
前橋の経済を伸ばしていこう.....	59
空港が必要だ！保税・通関と食物防疫の物流機能が経済を動かす.....	62
上武は空と海と陸の交通ハブの柱、まずは小規模空港からスタートしては？.....	64
災害支援は地盤、交通ハブ機能…上武が最適だ.....	65
航空産業は大きな可能性を持っている.....	66
成田空港は日本一の漁港、食糧となる魚類の70%以上は養殖.....	66
「上武道路」と名付けた17号バイパスはまさに上州と武州を結ぶ.....	68
広大な日赤病院、前橋病院の移転後の跡地約束通り健康増進の街に変えた.....	69
CCRCの理念が拡がっていく.....	71
「対立より補完」とのビジョンを持って吉岡町との連携.....	72
投資したくなるまちへ、ライバルは世界.....	73
若手職員が頑張っているまちづくりアワード受賞.....	77
ビジョン+補助金+規制緩和+営業努力(マッチング).....	78
市の優良建築の助成を受けてまちが動いている.....	81
価値が勿体ない、地回りが効かないから放置されている.....	81
市街地の駐車場が変わらねば.....	82
交通の革命 MasSマーズに前橋は全国の先頭に立っている、でもスローでいこう！.....	84
ゆっくりした時間を楽しめる、スローシティの時代が目の前に来ている.....	85
共愛学園前橋国際大学の鈴木鉄忠ゼミの若者達.....	87
スローシティとは？そして四つのスローの展開.....	88
粟を宮中へ、スローシティは効率や採算性から遠い考え.....	88
不思議な職業が集まってきた.....	90
突然ですがスノーピークの話です.....	91
デジタル+田園都市は政府の方針、前橋のデジタル・グリーンシティと同じベクトル.....	93
改めて皆さんに「前橋はデジタルで、どう変わるのか」お伝えします.....	94
脳波やDNAの解析こそ、課題解決の宝箱、景色が聴こえるプロジェクト.....	96
AI乗り合いタクシープロジェクト、個別最適化というサービス.....	97

自らの言葉で「夢の形」を語り「ビジョン」は実現

本日は、報道機関である時事通信が主催する内外情勢調査会の講師に指名されたわけですから、大いに緊張しながらやりたいと思います。予め申し上げます。スライドは450ページあります。1ページ平均12秒で90分のペースで話していきます。ロイター、AFP：世界の通信社である時事通信社の講師になったのですから、その次は日本記者クラブに呼ばれるように「何処にもない都市」を究めるぐらいの意気込みで話をします。どうぞよろしくお願ひします。



さて、夢を言葉にして私は皆さんに伝えてきました。山本龍の妄想と言われるようなそんなストーリーを皆さんに伝えていきます。でも、妄想も語り続けられれば本物に近づいていくのです。ビジョンを語り続けることが、市長のやるべきことなのだとか常に考えています。正しいビ

ジョンが皆に幸せを与えられるならば、たとえそれがどんなに実現困難であろうとも、山本龍の妄想だと言われようとも、言い続けようと思います。そうすることで必ず共鳴者が現れ、仲間が増えるはずですよ。

「徳は孤ならず 必ず隣あり」

その言葉の意味を実感する日々が10年続いてきました。私の語るビジョンに共鳴してくれた人が、隣で私たちと一緒に進んでくださっています。一方、語っているだけで未だに形にならないものも沢山ある。でも、語り続けることがこのまちの市長としての私の責任です。

「信なくば立たず」

そして、私自身が語る言葉がどんなに正しくても私自身への信頼を頂けなければ、誰も手伝ってはいけません。明治維新から前橋を導いた下村善太郎初代市長が、すべて私財を投げ打って前橋という都市を形にしてください。でも私には投げ打つほどの財産はありません。ただひたすら、私の存在をかけて挑戦するだけです。そんなストーリーを皆さんにお伝えしたいと思います。

シン・ニホンの著者である安宅和人氏は「残すに値する未来を考える」「未来は目指すものであり創るもの」と述べられています。私も常に皆さんに伝えていきます。「自分の求め

る変化をつくらう！」と。そして自分自身のビジョンを提示し、それを語り続けていけば世の中が変わる。変わることを信じて語り続ける。これが私の原則です。それでは私の講演をスタートします。私のスピリッツにもスピードにも、是非ついてきてください。

投資家にとって何が利益なのかその形は様々です。人にとっても、どこが幸せ、何が幸せなのか幸せの形も様々です。まさにこれからの自治体は、多様な人の幸せを提供できるかが問われています。これからの自治体は、人を引き寄せる魅力をどれだけ磨くことができるか問われています。今、多様な幸せづくりに集中しています。そして考えます。人を呼び込む、引き寄せる魅力とは何だ。人は暮らす場所を選ぶ時必ず考えます。「何処が一番幸せになれるか」それは投資

変化に翻弄される ↓ 変化をつくる

もビジネスも一緒のはずです。「どこに投資をすれば、どこに工場を設置すれば利益を最大化できるか」。朝日AERAにこんな記事が載っていました。コロナ禍での移住先ランキングです。

関東で第一位は前橋に隣接する吉岡町

現時点での瞬間値で選べば吉岡町の高評価は納得です。前橋・高崎の都市機能が隣接していて土地が安い。吉岡が選ばれるのは当然です。でも、長期的な視点で分析した場合はどうでしょうか。高島平の現在を見てください。今、吉岡町に移住した人たちも30〜40年後にはシニアになります。吉岡の地で生まれた子ども達が成人し、そのまま継続して暮らし続けていけるでしょうか。その後も同じ地域で世代交代していくだけのポテンシャルがあるのでしょうか。暮らす場所を決める際、2022年の瞬間値で判断し移住を判断された方を、未来の地域の共助の仲間にするには、何処のまちでも大切なことです。行財政、福利厚生あるいは自然やお祭り…立地企業や雇用の質。すべてを判断して私達は暮らしの場所を決めていく。どこが1番幸せになれるのか。しかも「幸せ」の形も一人ひとり違いま

す。まさに多様なのです。自分の価値観という基準をもって、人生のスパンで幸せの最大化を考える。

ひとは住む場所選ぶ
↓
何処が幸せになれるか？

資本は投資先を選ぶ/企業は立地を選ぶ
↓
何処が利益最大化できるか？

自治体は、暮らす人達の多様な幸せに近づくと
いう希望を提供し続けなければなりません。同様に資本も企業も利益の最大化を目指します。でもこの利益の形も、単純な利益という金額だけではなくなっています。企業理念に合致するという利益もあります。企業利益も多様な価値なのです。その多様性に対応していくことが自治体に求められているのです。投資先、移住先である自治体に対する移住者や、企業の要求は時々刻々と変化し、自治体の行財政運営や施政方針、ビジョンも厳しくチェックされるのです。私の施政の原則は以下です。

山本龍の行財政改革の原則

■無駄を減らして、ヤルベキ事に使う〓やり繰り・身の丈に合った政治

政治家はどうしても大きくやりたがるものです。むしろ、ちよつと小さめにやってみるといいと思います。もし大きくしたいのならば、行政プラス民間の力を借りてみてはどうでしょうか。民間の人達の力が入るようなスペースを空けておくということが大切です。

■生産性をあげて、10年間で5000人減(3100人↓2600人)

職員ひとり当たりの生産性が10%上がって、業務量を10%縮小できれば、概ね二割のマ
ンパワーが手に入れます。定数削減に回すことも、人員の再配置などにより新しい行政
の可能性にチャレンジすることも可能です。とにかく、意味のあることにマンパワーを振り
分けていくことが大切です。それが見つからなければ定数を削減する。それは市長の能力で
す。何よりも今までの因襲の中に続いてきたような古い伝統的なものはもうどんどん捨て
ていくべきです。淘汰していくべきです。それが出来なければ組織は何も変わりません。

■行政投資で未来の税収増加を

さすがに行政サービスで利益を上げていることを考えている市長は少ないと思います。公教育

毎年
20億円の15% 3億円の削減

ごみの処理コストなんてネガティブな予算でもつたないと思いい、ごみ減量を市民に呼びかけてみました。何度も言いますが、ビジョンがあるならば語るべきです。語れば誰かが手伝ってくれる。そう信じるしかないのです。ごみを減らして税を減らすうと呼び掛けました。有価物を集めてくれる子供会への報奨金も少し増やしてみました。ごみの展開調査を行ない、分別についての徹底もお願いしました。すると驚きです。6年間で18%のごみを減らすことができました。おかげで二つの焼却施設を廃止することが出来ました。年間3億円の削減達成です。

さらに、延命化工事でごみ発電機能を増強した清掃工場が発電した電力を自己消費することによって、1900万円の利益を得るようになりました。

山本龍の行財政改革の原則

- 無駄を減らして、ヤルベキ事に使う＝やり繰り・身の丈
- 生産性をあげて、10年間で500人減。(3,100人→2,600人)
デジタル化や人員の再配置などによって、サービスUPを行う。
会議は短く職員が目の前の市民に対応できることが大切。
- 行政サービスからは利益を求めることができないが、
行政投資は必ずそれによる増収増加を見込み進める。
- 民間投資には投資利回りができるように補助・規制緩和が必要。
さらには計画を広く公開する事で競争性、透明性を担保する。

や社会保障でも儲けることはできません。何でもかんでも行政サービスだから利益がなくともいいと考えるのも少し乱暴かなと思います。行政投資は必ずそれによる増収増加を見込むべきです。

■ 積極的に民間投資を呼び込もう

民間企業や市民が前橋を良くしようとして投資してくれるのですから、投資利回りができるよう応援するのはエチケットです。補助・規制緩和が必要な場合もあるはずですが。また、行政計画を広く公開することで、民間の市場参入を促し、競争性・透明性を担保することも大切です。市役所に信頼がなければ投資する人はいません。

組織内部の効率化は聖域なし、効率化で浮かした予算を市民へ還元

業務システムは自治体連携でコストカットが可能です。実際、前橋市、高崎市、伊勢崎市の三つの自治体の業務システムを統合させていただきました。前橋だけで年間9000万円の削減です。ほんとにありがたいと思います。これは、システムの委託企業さんが前向きに三団体を一緒にして、コストダウンを図るといふチャレンジがあったからです。この幸運によって、我々は恩恵が得られたのだと思います。こうやって改善・改革へ一緒になってクライアントと歩んでいこうとする気持ちに感謝します。このような気持ちがある企業だからこそ、ますます自治体の顧客を広げて欲しい。株式会社ジーシーへお礼を申し上げます。

令和7年、いよいよ政府が主導する自治体クラウドがスタートします。そしてその先のガバメントクラウドというシステムの中で、ジーシーと「まえばしID（仮称）」が全国の自治体DXの中核になれるように取り組んでいきます。

公共空間は誰のもの？ 利用する市民が一番、使い方を知っている

公園だって市役所が管理して予算を使い続ける時代は終わつたのです。市民の力を借りま

しょう。前橋市の売却可能土地は減ってきました。あれだけ売れ残っていた工業団地やローズタウンという住宅団地も、売れ行き好調でもうすぐ完売です。売るものはない。でも知恵を使えばまだまだ活用できる市有地はたくさんあります。それは「公園」です。公園は市の所有です。でも使うのは市民です。市の管理が悪くて草が伸びて怒られる。しかし、管理予算にも限界はある。さて、どうしようか、と考えます。前橋市には500箇所以上の公園があります。市民からはたくさん意見が寄せられます。市民も公園に関心があるのです。

- ・高木の管理が大変
- ・日陰になる木が欲しい
- ・子ども遊具がほしい
- ・シニアの健康遊具があったらいい
- ・近隣住民のおしゃべり出来る東屋が欲しい
- ・子どもの遊び声がうるさい
- ・ドッグランや芝生が欲しい
- ・時間貸しの駐車場に替えられないか
- ・土日は屋台が出てほしい

市民にとって公園は関心のある空間なのです。関心があってもっと良くしたいとの気持ちのある方が、自分たちで管理をしてみたらどうでしょう。そして市が支出している公園管理費にプラスして収益を得るビジネスモデル、つまりコミュニティビジネスを考えてみませんか。公園の収益物件化なんてビジネスモデルは、知恵があれば実現出来るはず。法律の縛りがあるなら、それすら改革していく。それが市民自治の力です。

アイデアがある人が使ってみたら如何、「三方よし」は今の官民連携

三方よしっていい考えですね。(売り手よし、買い手よし、世間よし) 商売は、売り買いが合意するのは当然だが、社会にも貢献できてこそ商売だというのが近江商人の経営哲学です。この新しいご時世に、市役所の行政サービスを、この「三方よし」の理念の中で再構築してみる意味があると私は思うのです。素敵な市役所になるんじゃないか。行政が税金を使ってサービスを担うだけでなく、世間様にお任せしてみよう。今風に言えば「官民連携」ということですが、謂わば「三方よし」の「世間よし」です。

一番素敵な「三方よし」アイデアを持つ方に「公園」を貸すことによって、そのビジネスアイデアが市民を楽しませる。この例が、「南池袋公園」です。昔は池袋



のホームレスのたまり場だったのですが、公園に出店したいと希望するレストランに貸し出したところ、芝生を整備してくれて、とても素敵な集いの公園になりました。結婚式も

できるそうです。この話は、この企画を実施した青木純さんに前橋でも講演して頂き、教えて頂きました。

その後、前橋市の公園担当者が柔軟に管理体制を整え直して下さって、いろいろな公園管理に挑戦しています。

前橋の桜の名所、千本桜公園も、桜の季節以外は寂しい公園です。キャンプ場に貸し出したところ、こんなにも賑やかに活用してくださいました。収益事業ではないですが、町内のお祭りの山車の置き場や、ちよつとした集会の場にも使えるのではないのでしょうか。皆さんの頭の中にある既定の「公園」の形を少し変えてみると、見慣れた公園にも新しい価値が見えてくるかもしれません。

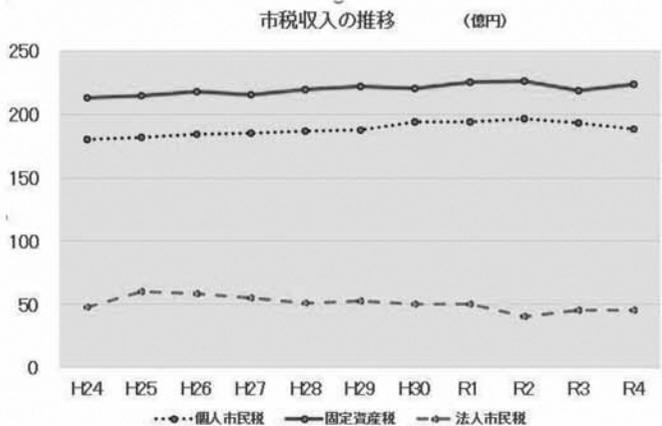


「三方よし」施設は市民開放を条件に民間移譲

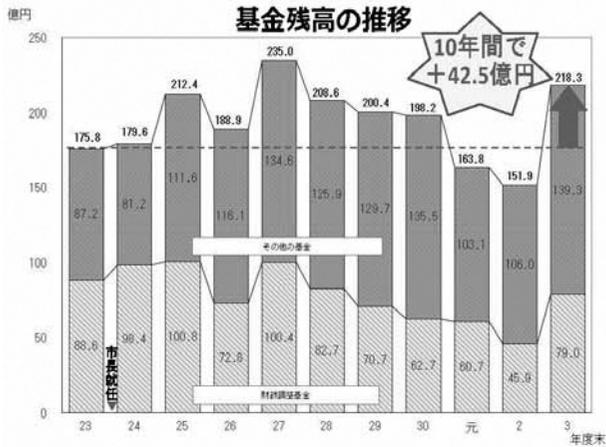


施設を民間移譲する場合も、まったく同じことを考えます。できるだけ運営の継承者に市民(世間様)に役に立つ仕組みを、移譲後の運営アイデアに加えていただくようお願いしています。今回、売却する保健センターの売却条件に、子供たちが遊べるプレイルームを設置することをお願いしました。同様に、民間移譲を公募中の前橋テルサ(年間2億5000万円の運営コストを払って20年間、市が運営)も、そろそろ役所が持つ時代は終わりにしようと思っ
ています。ただし、施設のプール、フィットネス、音楽ホールは、市民利用が可能なことを前提条件に公募しています。ちょうど有名なライブハウスフリーズが、前橋に活動拠点を移します。ホールでのイベントなども企画してもらうなんていうアイデアもありです。新しい運営者とフリーズとの連携も「三方よし」の精神です。

前橋税収は不変



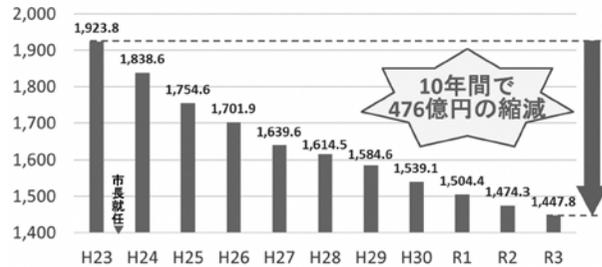
どんな経済変化の中でも、前橋の税収変化は少ないです。税収入が安定しているということは偶然ではなく、前橋が長い時間をかけて、景気変動の影響を受けづらい体質を築いてきたからです。産業体質が一本立ちの自治体は、その足が傷つくと歩けなくなり、前橋は多様な産業に頑張っていたから、税収が安定しているのです。私が就任した平成23年以降、コロナや景気減退の中でも財政が安定しているのは、先人の力だと感謝いたします。このことは歴史を振り返って、様々な前橋人の取り組み、区画整理事業による戦後の復興、あるいは産業構造を様々な形でアップデートしてきた取り組みの賜物だと思います。●ページ(ゲラ確認後)の前橋の歴史をお読み頂ければ、その苦労がしのべれます。



でも基金は減ったり増えたり動いています。私が就任した時から、ある程度増やしては減り…でもこれでいいのです。基金は使うために貯めているのですから。日赤前橋病院の新築補助で30億円を崩しました。使うべき時には基金を活用しています。現在の積み立ても使い道は考えてあります。済生会病院の建て替えや前橋工科大学の研究センターです。そして利根川新橋です。デジタルの投資が前橋に集中し、法人市民税や個人市民税の伸び、あるいは区画整理事業の終了に伴う保留地売却などの税収増を見込みながら、前橋の未来へ積極的に投資し挑戦していく。それがまた新たな税収を生んでいくのです。行政も経済体であり、まるで「コマ」のようです。止まれば倒れてしまふ。

基金は減ったり増やしたり(使う為に貯めておく)

全体の借入金残高推移(臨在債除く)



借金もどんどん減っています。私の就任時まであった土地開発公社や工業団地整備組合も、巨額の借入がありました。借入を市に付け替えて解散しました。市議会の購入議決前に土地の事前購入が可能な制度はやめた方がいいです。借入を減らしているということは、相当な事業を絞ってきたのだと思いますが、必要なことはしっかりやっているので、絞ったというよりも『やり繰り』という認識です。「隗より始めよ」ではありませんが、市長の退職金廃止はご時世、当たり前のことだと考えてきました。そして建物新築は既存機能の更新以外には行わず、行う時はすべて民間資本をどうやって入れるのか、知恵をひねり出してきました。「税金はあるだけ使っちゃえ! 足りなくなれば借金!」はあまりにも乱暴だし、民間の力をどうやって借りるのかというプロセスを大切にしてきました。

借入金残高、10年間で476億円の縮減

「まえばしID」による個人の意思が発揮される社会が実現すると、民主主義の形まで変わる

基金を貯め、それを崩して投資し、またそこから税収を得る、というサイクルを回す一方、内部の効率改善を進めています。コツコツと階段を上ってきたつもりですが、私達がやってきたデジタル活用が、急激な社会変化をもたらすかもしれない。皆さん、これからの行政システムの未来はどうなるか分かりませんよ。今のシステムがこのまま継続できるのか。いや大変化すると予測しています。いずれ「市長という役割」は不要になる時代が来る可能性すらあります。行政組織がこれからどうなっていくのか見極めができれば、やり繰りなどできるはずありません。AIによって産業形態、労働市場が変化する当たり前の未来です。その中で市町村・都道府県の形も変わり、道州制も有り得る話だと思えます。その時にヒューマニズムを持つ多数の議員によって議会がチェックされるのなら、予算案は生身の市長でなくAIによる編成だっていいと思います。なぜなら、市長の予算編成が前年踏襲の枠配分方式であるならば、予算案の組み立てはアルゴリズムで充分なのかもしれません。人情とか度胸とか、人だから出来るのです。AIでも出来る前例主義市長は淘汰されるでしょう。

デジタル⇨幸せを阻む障壁からの解放

話は変わりますが、九州ではもう銀行協会が「まえばしID」を使うという動きがあります。デジタル田園都市国家構想に指定された自治体の中でも「まえばしID」の動きが広まってきました。決して、地政学的、物理的に隣接する自治体としか連携できないという不自由は存在しません。これがデジタルの最も素敵な特性です。遠い北海道や九州であろうとも、同じIDを使うことによって連携が可能です。物理的な制約を飛び越えて、都市と都市がデジタルで連携していける、すなわちデジタル自治連携イメージのオリジナルは、会津若松のデジタル化を牽引してきたアクセントアの中村彰二郎さんです。中村さんは会津若松市のデジタル田園都市の選定の報を待たずに、若くしてこの世を去られました。彼が前橋市役所を訪れた際にデジタルの福音を私は得た。彼の遺言です。約束です。「デジタル⇨幸せ」を阻む障壁から解放できる。そんなメッセージだと私は心に刻んでいます。

物理的制約からの解放

「デジタル自治圏」

中村彰二郎さん@アクセントア
のアイデア

デジタル民主主義

いつでもどこでもまちづくりに参加できる
自分の意思を反映できる

未来型の民主主義を実現するための
新しいコミュニケーションプラットフォーム
多くの市民が集い意見を交わすことが難しい
物理的な制約からの解放

A 議会が市長…議会議論の中で予算案が組み立てられそれを住民意見が修正、合意する。

B 市民が市長…住民意見によって予算案が組み立てられ議会が修正、議決する。

メタバースにおける前橋市民の誕生は、ガバナンス変えていく。

それは民主主義の進化、民主主義の概念そのものを再定義だ。いつも感じる。様々な首長を見て本当に民意を聞き(インプット)、政策(アウトプット)にしているか。脳の中は見えないからだ。いつか首長のヒューマニズムによる政策形成というプロセスは代替される。皆さん不思議でしょう。どうして山本龍は首長縮小・排除するためのデジタル民主主義を進めるのか。その理由は首長が一人で決めることへの不信です。一人で決めること

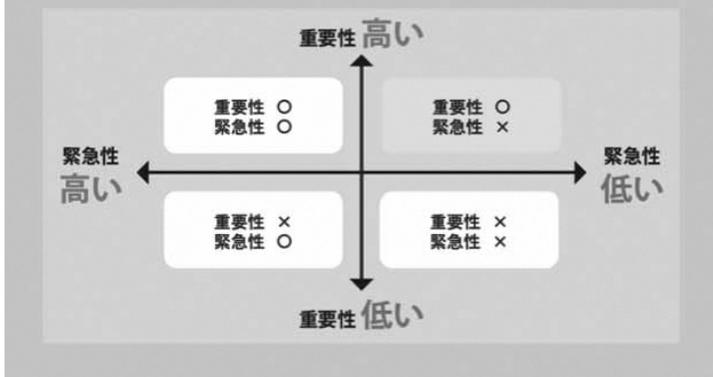
市長は要らない。デジタルは時空の制限を超越する。34万市民を「近所」に出来る。「近所」の皆でワイワイ議論し決める。いつか世界も「近所」にしよう。

オンラインで市民意見が集まって予算案への民意が反映、つまり市民意思の表明(レファンダム)が日常的に可能になれば、住民の政治参加の実現です。そうなれば、議会や市民が市長の代替が出来るはずです。民意を知っている風情の首長は、本当に民意を聞き(インプット)、政策(アウトプット)にしているか。少数のサンプルから自己都合で政策を作っているのではないか、他人の頭の中は知らない。頭の中で組み立てられている政策形成過程など見えるはずはない。民意を聞いているなどは実は綺麗ごとで、自分の欲得で動いているかもしれません。

でも、34万市民の意思が明確な計算式の中で合理的に形成され、政策案の議論の中で完璧な決定までの政策過程のプロセスが見えます。そこには市民の意思が反映されます。議論を通じて自分の意見は否定されたとしても納得すべきです。

市長としての自らの自己否定にはなるけれども、いつか首長の中途半端なヒューマニズムによる政策形成というプロセスは不要になります。その場合の手法はAかBどちらかでしょう。

ヤルベキことにお金・時間を使う



【重要性○緊急性○の領域】にあるものは忙しくても取り組む。例えばそれは命を守る救急車の搬送時間を短縮することなどです。

【重要性×緊急性○の領域】にあるものは、緊急と思ってもまったく重要じゃないケースです。救急車の要請が入ったので出動したら、ただの深爪だった。など、緊急と思わせる雰囲気には注意です。

【重要性×緊急性×の領域】にあるものは単に無駄なことです。

【重要性○緊急性×の領域】これこそが一番に取り組むべきことです。では「緊急では無いが重要なこと」って何でしょうか。それは貴方が愛する者、すなわち家族を大切にすることです。皆さん、奥様を大切にされています

とは、ひとりの頭の中のブラックボックスに僕たちの未来を託すことです。山本龍は、龍の政策過程が山本龍の脳の中に見えています。でも皆さんには見えません。見せたい！だから私はお喋りなのです。この講演もそうです。どこでも隠し事なく、そして大きな声でたくさんの人たちに共有できるように常に話し、語りツイートします。でも全ての人には届かない。だから全ての人が自分で納得するには自分でやるってことが一番です。

ハッキリ言います。行政組織は不変ではない。

GDPも伸びない、お役所も変わらず。停滞に慣れ切った日本に押し寄せる、驚異的な短時間当たりの変化量の爆発。しがらみや淀みを全てふっとして、大変化がやってくる。だからこそ私達は準備しなくてはいけない。この大変化の爆発で、我々が大進化を遂げるのか、それともこの爆発で減ってしまうのか、まさにガラパゴス日本が問われている。私達は何をすべきか。私が最も大切にやるべきことは、このマトリックスの右上の領域です。四つの領域の説明をします。

か。「今何しているかな」と、妻は常に夫のことを気にかけてくれます。しかし、私は仕事モードに突入すると、残念ながら妻のことは思い出しません。どうか愛する者をじっくりと見つめてみてください。私も、妻を、そしてこの前橋と同じようにもっと愛したいとあります。どんな市民の暮らしがあるのか、助けられる人が居るのか、どんな未来を創るのかなど考えることばかりです。

人命を救うために1分、1秒を短縮する努力

前橋市消防は、救急車の搬送時間23・2分を目指しています。このタイムは久留米市消防局の搬送時間であり、日本最速です。これは自治体や消防局が集めている正式な統計ではありません。中核市以上の自治体で持っている消防本部のデータを参考に、私が勝手に目標を定めています。前橋は29分でしたので、3分の差があります（東京消防庁は50分）。単に時間を競っているわけではありません。全ては救命率を上げたいのです。そのためには医療提供のスピードとクオリティを上げなくてはなりません。1分1秒の遅れで、生死や後遺症の有無にも関わってきます。



深爪して
痛い?

16,000件/年

- ・日赤病院と連携して、救急車内を患者画像やバイタルデータの5G伝送
- ・ドクターカーの日赤病院、群馬大学病院の体制拡充
- ・ヘルスレコードへのアクセスによる既往症等の確認

このように、段階的に救急搬送の体制強化に取り組んできました。一方、コロナ禍の2年間で救急隊員の負担も大きくなってきています。防護服の着用、搬送先の医療体制もコロナの影響を受けています。前橋市消防局の一年間の出動件数が想像できますか。1万6000回です。中には緊急性に乏しい通報もあります。安易な通報はお控えください。

自治体が連携・補完し合ってエリア全体の暮らしを支える



傍目から見ても、群馬県はGメッセなどの新たな維持管理コストが増えたわけですから、県民会館が負担になったのは理解できます。この県民会館の活用について、最も便益を受けている前橋市に委ねたいという県の考えは当然です。Gメッセ建設の是非を議論する際、建設費と維持費による財政負担と、県民会館の維持についての見解を、当時の県議会は確認するべきでした。県に負担を押し付け続けることは出来ません。前橋市には、市民に対して文化活動の場を提供する責任があります。2200席のホールは、他には代替できないのですから、誰かが担保するべきです。そしてその努力を前橋は担うことを決断しました。

県民会館の大ホールと前橋市民文化会館大ホール、小ホールを大中小として、一元管理しながら様々なイベントや文化活動に提供し、やり繰りしながら責任を果たす作戦です。小ホールも、フリーズに貸し出すなどのやり繰りを企画しましたが、天井の劣化があり、断念しました。

自治体は連携・補完し合うことで、やり繰りや身の丈という折り合いをつけながら市民とともにこの街で暮らしていきましょう。

子ども医療費の自己負担額

	0歳～	3歳～	小1～	小4～中3	(共働き世帯モデル家族の場合) 子ども1人の医療費合計
明石市	0円				約 0 円
神戸市	0円	1回400円	1回400円 (所得制限あり)		約12万円
加古川市	0円			1回400円 (所得制限あり)	約18万円
姫路市	0円	0円 (所得制限あり)			約41万円

明石市が中学校3年までの医療費無料化を

自治体は仲良く連携と言いました。でも横並びで安心し切って知恵を働かさないと悪です。切磋琢磨は住民の満足度につながるものだと思います。まさにその典型的なチャレンジを行っているのが、兵庫県明石市市長の泉さんです。近隣自治体の関係者に言わせれば「えげつない」と言われることでしょう。周辺の自治体にしてみれば、こういう都市間競争にさらされるのはたまたまものではないでしょう。でも市民に知ってもらえるチャンスです。今まで自治体の行政サービスに関心の無かった人達が、明石市のこのチラシを見て「明石市はいいなあ。自分の街はどうなんだ」と調べるでしょう。全てが比較される時代が来ます。値段を比較できる【価格.com】のように、自治体の【暮らし比較.com】が、全ての自治体を比較し、公開する時代が来る。私は良いことだと思います。

でも自治体の住民サービスは、それぞれ特徴的であっていいと思います。首長や議会の個性がその自治体の行政サービスの方針を決めます。首長や議員のヒューマニズムが同じであるはずはありません。でも一分野の政策比較では、その自治体全体のサービスは分からないということ。首長、議会の考えや地域の特性によって、政策の凸凹はあります。子育て支援、就労支援、高齢者支援、障害者支援、あるいは産業政策や経営支援、それぞれの社会の背景によって政策には個性があるのです。むしろ、姫路市や神戸市、加古川市が別の分野で特徴的な取り組みをしている。そちらに財源の優先度を高めているということも、我々は見逃すべきではありません。全てが手厚い政策であるということは難しいことなのです。様々な違いの中で首長、議会が市民生活から感じたことをフィードバックし、迅速に対応するしかありません。明石市も18歳までに医療費無料化を始めました。

前橋市はなんと高校3年生まで医療費無料

前橋市は、2021年春から高校3年生までの医療費の無料化をスタートすることができました。

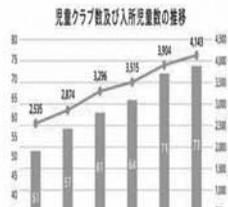
もちろんコストはかかります。1億数千万円です。でも皆さん、医療費は病気や怪我をした時に初めて発生するものです。怪我や病気になり医療機関を受診し、その治療費や薬代を前橋市が直接医療機関へ支払う。医療費が無料だから故意に病気になったり怪我をしたりする人はいないのです。本当に必要な人に支援をするという意味で、誰もが納得してくれる公的負担だと思います。

無料だからこそ、簡単に医療機関を受診してしまい、医療機関の混雑や負担が増すのではないかという意見もあります。しかし、怪我をしても医療費の負担がでずに通院を我慢する、こんな子ども達をなくすことの方が重要です。

子育ての負担と不安をなくす!

前橋の
挑戦

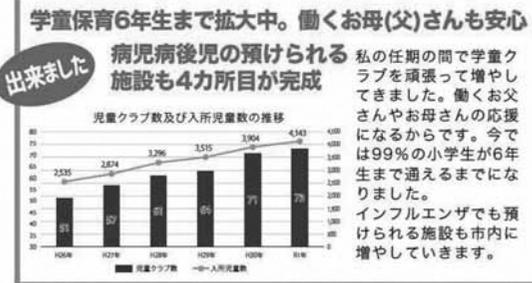
- 学童保育6年生まで拡大中
- 高校生までの医療費無料化へ
- 幼・保・子ども園に支援員を配置
- 保育料などの幼・保・子ども園の格差解消



子育ての応援がしっかりとできている前橋だから安心

学童保育も6年生まで拡充できました。施設を選ばなければ希望者全員が入れる規模まで拡充できました。また、前橋では病中病後児を預かれる施設が4箇所設置されています。

私の任期の間で学童クラブを頑張ってきました。働くお父さんやお母さんの応援になるからです。今では99%の小学生が6年生まで通えるようになりました。インフルエンザでも預けられる施設も市内に増やしていきます。



朝起きて子どもが高熱の場合、働く保護者は大慌てです。「子供が発熱なので休みます」と会社に連絡できない方もいるでしょう（労働者には休暇を求める権利があります）。そこでこの施設がお役に立てると思っています。市町村によって社会保障の違いはいろいろです。日頃から目に見える形で支援や保証があるケースや、いざという時にバックアップするケースなど、それぞれがまちの個性なのです。誰だって負担が少ない方がいいに決まっています。でも本当に困った時にその困った局面で支えられる。ピンポイントに、本当に困っている人に支援を手厚くすることの方が、はるかに応援する意味が大きいと思います。それこそまさに、やり繰りではないでしょうか。

子供の未来へ投資してください



政治が未来を築く土台を作るならば、私が前述したマトリックスの【緊急ではないが重要な領域】を、最も大切にして子どもの応援をするべきです。つまり、学校の雨漏れする天井や水の流れないトイレの修理は【重要性○緊急性○】ですから、最優先に対応すべきです。でも、私達が気にしなくてはいけないことは、【重要性○緊急性×】の目に見えない未来への最重要課題です。子どもが幸せを自分で見つけられるのか、そういう教育をできているのか、ということを自問し、確認することです。前橋では、経済困窮の中で学習が遅れる子どもへ「ただ塾」をスタートしています。「子どもがやる気になった」と、校長先生からお手紙を頂いたことがあります。この内閣

府の資料「子どもの貧困に関する現状」にあるように、現実には保護者の経済状況が子どもたちの未来を左右します。昔はみかん箱をひっくり返して勉強した苦学生の話がありました。今は貧困の連鎖の時代になってしまいました。だからこそ未来を応援しましょう。しかし、応援は勉強ばかりではないのだと私は思います。最終学歴ではなく、生きる力こそ大事です。寿司職人、大工さん…職人も世界に通じます、人生を豊かにします。いろいろな形で未来を拓いてあげられる、そんな多様な応援の輪を拡げていきます。

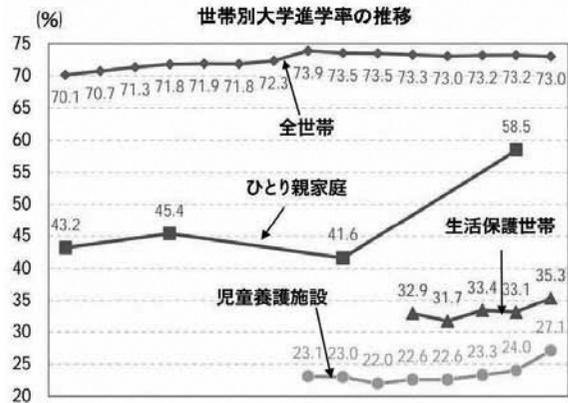
子どもの人権を守り、中立な立場で助言を

よく学校のいじめが新聞に載ります。言った言わない、どっちが悪い。学校は知っていた、いや知らなかった…。事態を目の当たりにしていなければ、教育委員会が簡単には介入することはできません。そうならないために、学校の問題に弁護士が介入できる仕組みが必要です。

前橋市は、弁護士会を通じて、子どもの権利に詳しい弁護士と委託契約を締結しました。保護者・児童生徒・教員・学校、すべての当事者に中立な立場で助言ができる体制づくり

です。学校内の紛争に専門チームが早期に介入できれば、問題が複雑化する前に子どもの未来を守れます。

育った環境で将来が決まってしまう。



H15 H16 H17 H18 H19 H20 H21 H22 H23 H24 H25 H26 H27 H28 H29
出典：内閣府「子供の貧困に関する現状」

（令和2年） 3月22日（日曜日）

新年度に前橋市、大泉町 スクールロイヤー導入

いじめ、不登校対応助言

学校でのトラブルに法的な観点から対応するため、前橋市と大泉町は新年度、学校が対応できる弁護士を配置するスクールロイヤー制度を導入する。弁護士はいじめや不登校といった問題について中立的な立場から助言し、いじめ予防教育や教員の研修などにも協力する。

前橋市は児童弁護士会を通じて、子どもの権利に詳しい4人の弁護士委託契約を締結。対象は市立小中学校と公立幼稚園、特別支援学校、地蔵どの4プロジェクトにそれぞれ設置する。

大泉町は弁護士2人の入居でスタート。新年度一般計当初予算10万円を計上し、町教育課は17で、町教育課は17として学校側に立った弁護士は、児童生徒、保護者、教員、学校の当事者に対して中立的な立場でアドバイスしてもらうとお願している」と説明する。

町教委は新年度、教員向けに学校をめぐり、法開講の研修会も予定しており、スクールロイヤーに師を依頼するという。

前橋市は、スクールロイヤーの導入は「弁護士との連携

学校教育分野の実施事業リスト

- ・ 30人学級へ向かって進行中
- ・ 特別支援教育支援員で個性を伸ばす応援
- ・ 市の独自採用教師による学習支援
- ・ 部活動外部指導者は近所の元選手や茶の先生
- ・ 学校クラーク（校務補助員制度）で現場の先生の応援
- ・ 各校にタブレット配置してICT教育に利用
- ・ 校長先生が学校の判断で使える裁量予算制度を開始
- ・ いじめ解決チームでいじめ問題の早期解決
- ・ 不登校児童生徒を学校に復帰させる応援（Open Door Supporter）
- ・ 生活保護家庭の子どもへの学習支援（M Change）
- ・ 学校に弁護士による支援開始（スクール・ロイヤー）

いろいろなことをやってきました。と自分でも思います。でもそれらはソフト事業ばかりです。

何度も言いますが、この他に校舎やトイレの整備は当たり前のことです。建物や施設は学校校舎改修計画・トイレ改修計画に従って粛々と取り組めばいいのです。しかし、子どもを巡る環境は突然に変化します。だからこそ、その変化を予測するべきです。対象を観察すること、つまり「愛し合えること」を大切にしたい。教師と児童生徒と一緒に昼食を食べたり、どこか怪我があればいじめを疑うことができたりする優しさ。この先生は自分を見てくれているとの思いだけで子どもは大人を信じてくれる。

その優しさに学校で出会えないならば、学校に無理に行く必要はない。その代わり新しい学びの場を作りましょう。例えばフリースクールです。実は、この発想は私のものではなく、教育委員の高濱正伸さんの考えです。8月臨時会で公設民営のフリースクールについて議論します。そして保護者は今の子どもを愛してほしい。今必要なのは子どもの未来を信じ、寄り添い、学校だけじゃない居場所を認める優しさです。

就労と結婚には明らかに関係性がある

18～39歳の男性(正社員)



18～39歳の男性(非正規雇用)



男性の結婚している割合は、その男性が正社員であるか非正規雇用かで大きく差があります。正社員とフリーター結婚率の差は男性の方が女性より大きいのです。女性は自身の収入や就労の質によらず、結婚のチャンスが男性よりも大きいようです。前近代的なような表現ですが、これが数字からみて、それは納得できます。結婚できるための職場を作ることが、自治体に人口増をもたらす大きな政策となります。そんな職場を作る、それは当然のことだと思います。でもここで私は断定的に「結婚できる企業とは給料を払ってくれるいい企業」と断定したくはありません。寿司職人や大工さん、アーティスト、ミュージシャンだって、やりがいのある仕事に就く男性は非正規でも魅力的です。結婚できる可能性は高いはずです。ここでいう正規雇用とは、決して収入の多寡ではなくて、クリエイティブティの高さだと私は考えていますが、皆さんいかがでしょうか。

T S M C が熊本に起こす波は前橋に来るか？ 未来を創る競争は全国で始まっている

ソニーと台湾企業の半導体関係企業が、九州の熊本県南陽町という人口3万人の町に出来ます。1兆円の工場です。この町に一気に人口が6千人増えたそうです。それどころか、インターナショナルスクールが出来、21万円の熊本県内の平均大卒初任給を7万円も上回るそうです。民間企業が熊本に雇用の爆発を起こしたのです。最先端の産業立地が、高度人材の子弟教育のためのインターナショナルスクールまで拡大して一層、地域価値が増し、それが家族同伴で引越してくる企業関連の転入増をさらに加速させます。

初任給は大卒で28万円。21万円程度の熊本県内の新卒技術者より3割強も高くなり、他の熊本県企業は雇用確保のために、生産性も上がらないまま給料を増やさな



ければ人材を確保できないリスクが生まれたのです。T S M C は低賃金に沈む経済の黒船です。この変化に、あなたの街の企業は耐えられますか。単位労働当たりの生産性をどうやって増加させ、これだけの給料を払い続けられる体質に変化するのですか。「自分の地方は大丈夫」と高を括っている間に、オールジャパン、いや、グローバルな生産性の上昇が迫ってくるのです。このグローバル規模の高付加価値産業へ、旧来型産業からのアップグレードは待ったなしです。もちろん古い町工場の時代が終わったわけではありません。燕三条の工場も、職人の高付加価値(デザイン性、機能性)の付加にチャレンジされています。三条市立大学という「ものづくりの高度化人材の育成」を目的に大学を設置されたのですから、すごい行動力です。日本の地方都市がチャンスを掴むために、21世紀型へ転換する知恵が必要だ。前橋工科大学も1952年に創立され70周年。そして、アップル元副社長の福田尚久さんを理事長に迎え、DXへの準備は既に出来た。前橋らしく未来へ進みます。未来を創る競争は全国で始まっています。この半導体工場が熊本に起こす波は前橋に来るのか、いや呼ばなくちゃいけません。どこにもない価値を前橋に生むには、前橋自体がクリエイティブティな「めぶく」都市であり「スロースティ」であり「スーパースティ」にアップグレードする必要があります。何処にもない価値をこのまちにつくります。

何処にもないまちをつくらう！

「特別」な価値があるまちに人は集まる

キヤッチフリーズは「水と緑と詩のまち」です。でも前橋出身のコピーライター糸井重里さんは私に言います。「前橋ぐらゐのまちはどこにでもある」と。大学がたくさん立地していて、リカレント教育の仕組みがある。「まえばしID」によるデジタルサービス、新しい技術が学べ、病院がたくさんあって、重粒子線がん治療も受けられる、救急車は「最速」、ドクターカーは2台運行、…確かに私たちの前橋は、他所には無い要素がいくつもありません。そのコンテンツを磨いて発信する。健康は前橋にとって大切なコンテンツです。そしてもっと健康都市にならなくてはならない。例えばメイヨークリニックが本部を置いている街として有名なRochesterです。前橋がミネソタの都市と肩を並べるには相当の時間がかかるでしょう。でも前橋市にある病院やそれぞれ特徴を持ったクリニック、薬局、柔整師：市内に立地する介護や健康増進の施設と、前橋市の保健・健康増進を担う保健師。この人材は誇れる宝です。さらには救命救急の体制、子ども時代の健康記録や学校保健記録、国民保険 企業保険、そして介護保険や障害者医療、様々な保険者のサービスまでネット

ワークによって結びつけることができれば…ヘルスレコード連携によって「健康」のコンテンツを築いていきましょう。セキュアな「まえばしID」の活用によって様々な可能性が生まれてきています。



「前橋市は水と緑の詩の街」といいます。詩は萩原朔太郎のことです。けれども、その萩原朔太郎だって日本中の人が前橋だとイメージできているでしょうか。宮沢賢治や太宰治は知っているかもしれないけれど。水は利根川や広瀬川：水道の水も確かに美味しいけれど、うまい空気や水を自慢する町は他にもあります。糸井重里さんが言っていた言葉「何処にでもあるまちは、ないのと同じ。前橋ぐらいの街はどこにでもあるよ」。この言葉に私は気付かされた。34万人の市民にとって「特別」という意味は様々でしょう。ならば、一人ひとりの市民が自らの特別だと思う価値をこの街に築いていけばいいのです。そして市役所や市長はそんな市民の応援を続けましょう。市民自らが主体になった前橋づくりです。いつかニューヨークと同じように「MAEBASHI CITY」と書かれたTシャツを、此処に暮らす人たちが誇りをもって着てくれるでしょう。

MAEBASHI PRIDE



そしてスポーツを応援できる幸せも特別な価値です。スポーツに声援を送る喜びは、世代を超えてまちをひとつにします。前橋市は地元スポーツチームの挑戦をふるさと納税などで応援しています。自分のまちのチームを応援できるってことは、どのまちもできる訳ではありません。そしてみんなが応援するチームがある意味は、赤

ヘル軍団の広島も同じではないですか。前橋育英のサッカーや野球の全国制覇は誇らしかったし、ニューイヤ―駅伝の中継に映る前橋の看板を見て喜んでいる前橋出身者もいると思います。

ライブハウスのフリーズがどんな素敵な音楽のまちをつくるのか。ロッカーの登竜門なら前橋みたいな可能性にワクワクします。イノベーションやプログラムアワード…。デジタルの聖地になることも特別なまちへの一歩です。



同じ歴史はない、前橋学が歴史の誇りをつくる

前橋の豚肉の美味しさも自慢です。野菜の新鮮さも特別な価値です。偉大な詩人・朔太郎も発信すべき宝です。三村明夫さん（前橋高校出身）は日本経済のご意見番であります。でもまだ隠れた前橋の凄さがあります。それは歴史です。もともともっと磨き上げて発信したいです。

「前橋学センター」が始まって5年。市民が自ら調査した歴史ブックレット31巻を発刊しました。前橋の様々な歴史文化をブラッシュアップしています。江戸時代の大名家（大胡の牧野、総社の秋元、酒井雅楽頭、松平大和守）、郷土芸能、吉永小百合さんのCMで世に出た古墳時代の歴史、天皇家の祭典に献上する粟…。歴史は先祖への供養です。そして、現代人が先人の偉大さを自分達なりに解釈して後世に伝えていく。前橋学センターがそんな歴史研究の中心になってくれていることに感謝しております。



襟には三つのビジョン、市長は「未来の形」を発信

市長はセールスマンです。「前橋」をシティプロモーションし、「前橋」を磨き、全国・世界へ発信している。私の胸のバッヂを説明します。それぞれのバッヂが今、前橋が直面している危機を切り切るビジョンの証です。五つの危機の話は後ほど説明します。



【上段】かたつむりはスローシティ国際連盟のバッジ。スローシティとは物事の多様な価値観を大切にすること。給料が高い人、役職が高い人が偉いという社会観を捨てるということ。幸せは自分の心が決めるということです。今、赤城山に沢山の移住者を迎えています。彼らは東京より前橋市や赤城山で暮らすことが幸せに近づくことだと移り住んでおられる。面白い個性が輝いています。私にとっては大切な新しい前橋市民です。

【中段】前橋市章です。今年、市制130年を迎えます。東京、横浜、水戸に次いで関東で4番目に市になったのが前橋です。この丸いデザインは「輪貫き」といって松平大和守の馬印です。合戦のときに自分の部隊がどこにいるか分かるように、馬に乗っている武将が

背中に差した旗のデザインです。

【下段】スーパーシティです。実は前橋市は2022年の4月、スーパーシティの選考に敗れました。日本で5箇所選定されると言っていたけれども、結果的には岸田政権に代わって、スーパーシティがいつの間にかデジタル田園都市国家構想に変化してしまいました。尻切れトンボに終わってしまったので、今はこのバッジは身に着けていません。

その代わり、前橋は岸田内閣の目玉政策である「デジタル田園都市国家構想」において、日本で6箇所のデジタル都市(タイプ3)に認定されました。10億円近い事業費を認定され、新しいデジタルの力によって田園暮らしを楽しむというビジョンにチャレンジしています。前橋はそのビジョンを「デジタルグリーンシティ」と呼んでいます。そして私の胸にはそれを象徴するどんぐりのバッジが付いています。「デジタルの力で皆がグリーンライフを楽しめるような余裕を生んでいく」というメッセージを込めています。デジタルグリーンシティのビジョンが、「まえばしID」の信頼性と共に今、日本中に広がるうとしています。



前橋が「民力」で乗り越えてきた危機

前橋の歴史を知られば知るほど、前橋が市民によって支えられてきたまちだという事実を感じ、誇らしく思います。前橋市は四つの危機を市民の力で乗り越えてきました。そして今、5番目の危機に直面しています。この危機も同じように市民とビジョンに結ばれて乗り越えられます。

第1の危機と民力

- ▶現在の前橋の出発は、江戸時代の城下町(前橋藩)
- ▶利根川の浸食(川欠け)により城が廃城(自然災害)→城下町消滅
- ▶酒井氏は姫路へ、松平氏は川越へ。
- ✓領民(商人・農民)が生糸貿易による富を城再建に還元、藩主の帰城と城下町再建。



第2の危機と民力

- ▶前橋城再建の翌年が大政奉還、明治4年は廃藩置県。城下町として発展できなくなった(時代の変革)
- ✓県庁誘致運動により、県庁所在地(県都)として発展
- ✓関東で4番目に市制施行(明治25年) 東京・横浜・水戸に次ぐ。
- ✓今年、市制130年



1番目の危機は、川が氾濫して前橋城が無くなり、松平の殿様が川越に去ったことで、前橋は殿様不在の代官所になってしまったことです。その後、領民がお城を作って松平公を呼び戻したのです。2番目の危機は明治維新です。前橋藩そのものが無くなってしまった。経済人が協力し自らのお金を投げ打って群馬県庁を建設し、知事(県令)を迎えまし

た。この県令は楫取素彦。NHKの大河ドラマ「花燃ゆ」の主人公で吉田松陰の妹婿です。

3番目の危機は昭和恐慌。生糸業が衰退した経済危機を、理研や中島飛行機、あるいは木工団地や漬物などの食品産業という新しい産業を誘致・創業して危機を乗り越えました。

4番目の危機はB29の爆撃による前橋消失です。東京よりも被害率は高く、市の80%が灰になりました。カトリック教会が南の尖塔も落ちてしまった。しかし昭和28年に復興

を完了しました。前橋まつりもその当時の商工会議所が始めた復興祭が起源です。

前橋の危機からの脱出物語にスーパースターもお殿様もいません。活躍したのはその時々の市民の力です。経済人や一人ひとりの市民が、ビジョンに結ばれて発揮した力です。

5番目の危機、それは現在、私達がチャレンジに直面しています。いわゆ

第3の危機と民力

昭和恐慌により基幹産業であった製糸業が壊滅的打撃(経済危機)

- ✓前橋商工会議所を中心に産業構造の転換
観光都市への転換(赤城山・敷島公園)
重工業の誘致(中島飛行機・理研)
地場産業の育成(家具木工業・漬物食品業)



第4の危機と民力

昭和20年8月5日、アメリカ軍の空襲により市街地の8割が焼失、罹災人口率は東京以上(戦争による被害)

- ✓全国でも最も早く昭和28年に復興を完了、町村合併、工場誘致などにより生産都市に転換。戦後も群馬県を引っ張る。



第5の危機と民力

- 昭和58年の「あかぎ国体」を境に低落が始まる。
- 経済の低成長、少子化社会を迎え、市街地の空洞化。
- 地方消滅の危機)
- ✓「めぶく。」を合言葉に危機を克服する民力が湧き起こる。



る英国病、先進国病の成れの果てです。新しい価値観を追い求めるのではなく、現状に満足してしまっています。新しい価値に挑戦するチャレンジャーは「出る杭は打たれる」の言葉の通りです。これでは社会は変わりません。

私達は「めぶく」の言葉に目覚めた。そして新しい価値を求めてチャレンジしようする気持ちを込めて「めぶく」のビジョンを掲げました。そしてこの街は、一人ひとり市民の「めぶく」を応援することを誓いました。今までの四つの危機と同じように、権力や権威が引っ張るのではなく、市民の一人ひとりのチャレンジャーとしての意識を大切に行っています。そんな「め

ぶく」がスタートしてまだ10年。これから私達は大きく「めぶく」。そのために私達はビジョンを掲げます。「めぶく」からスピニングアウトした「スローシティ」「デジタルグリーンシティ」「前橋アーバンデザイン」「官民共創」「イノベーション」様々なメッセージを持って結ばれて進んでいくのです。

歴史の復活、その緊急性は決して高くない、 でもこの世代がなさねばならない取り組みだ

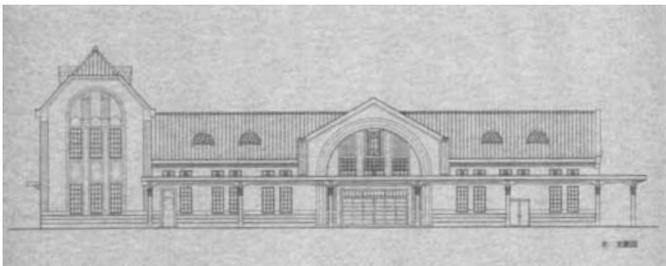
前橋を含む北関東三つの県庁所在都市は連携してきました。臨江閣の改修が終わったので、宇都宮の佐藤栄一市長と水戸市の高橋靖市長のお二人に臨江閣をご覧いただきました。高橋さんがポツリと「水戸もね。大手門を復元したんですよ。市民が寄付を集めて

くださったので、国土交通省の制度を使ってたちまち復元したので」と、お話しされました。水戸・徳川家御三家と前橋の松平のブランド力の差は私も認めます。話題のマウントを取られたのでいささか悔しいですが、これも歴史的事



実かもしれません。

でも、一番興味を持ったのは国土交通省の制度とは何だ、ということ。高橋さんの説明では「歴史まちづくり事業」に申請すると、かなりの率で国がそれを支援してくれるということでした。前橋では早速その制度を取り入れるために歴史まちづくりの計画を国に提出しました。2022年秋までにはこの認可が受けられます。認可を受けられれば、あとは市民の寄付と予算を組んで、街中の歴史を取り戻して行きます。8月末に認可を受けられれば、前橋も水戸市のように取り組みを始めます。JR前橋駅・駅舎の設計図も見つかったことですし、その復元を市民に呼び掛けていきます。でも歴史の復活は決して緊急性は高いとは思いません。重要だけれども緊急ではないことなので、市民の寄付を頼みに致します。



あと10年で前橋の歴史の街並みも整ってくるはず

現在の街並みと江戸時代の地図を重ねたドローン画像を、関東測量株式会社、代表取締役 伊藤成樹氏より頂戴しました。皆さん、これを見ると、建物の屋上がないんです。理由は、条例で公共建物の上をドローンが飛べないからです。従ってビルは筒状になっています。前橋はずいぶん細かいことで皆さんの経済活動を阻害しているんだなと気付きました。ドローン条例もきちんと検証し、改正の必要があるかもしれません。

前橋城の復活の意見も多く聞きます

実は、前橋城は立派な石垣の上に櫓が築かれるようなお城ではなかったのです。酒井公の時は多分そういう形をしていたと思います。しかし、松平時代に三番目の危機にあ



るように、前橋の豪商の皆さんが集めたお金で復活させた城は幕末の合戦で形が変わり、大砲の砲撃によって石垣が壊されるため、土塁方式になっています。五稜郭と同じような構造をしていたのです。でも酒井公の時代に整備された大手門や車橋門は、歴史まちづくり法による国土交通省の支援を受けながら少しずつ修復していきたいと思っています。

ビジョンが地域に変革をもたらす

一気に経済の話へ飛びます。下村善太郎さんの旧宅で見つけた算盤です。世界を結ぶ糸取引で得た巨万の富を、この算盤で弾いていたとすれば、随分質素だと感じませんか。下村善太郎は初代前橋市長です。彼は数々の奇跡を前橋に起こし、いくつもの危機を市民や経済人を牽いて乗り越えて来たのです。それが出来たのは富とビジョンの持ち主だったからです。彼のビジョンは国利民福【個人の富は国家の富】の洪沢栄一の想いと重なります。

「夢なき者は理想なし

理想なき者は信念なし

信念なき者は計画なし

計画なき者は実行なし

実行なき者は成果なし

成果なき者は幸福なし

ゆえに幸福を求むる者は夢なかるべからず」



初代市長 下村 善太郎



下村善太郎旧宅で龍が発見した算盤

「目的には理想が伴わねばならない。

その理想を実現するのが、人の務めである」

これらの言葉は洪沢栄一のことばですが、下村さんも同じ志だったのでしょうか。

巨万の財を、彼は惜しげもなく前橋の危機を乗り越えるために使い果たしました。前橋城の復活や経済発展のための投資・・・その金額を秤ることはできません。臨江閣も下村善太郎さんの寄付ですから、どんなに頑張っても下村先輩の真似は私にはできません。投げ打つ財も無いのですから。でも僕は、身命を掛けてビジョンを語る意思があります。そしてそのメッセージを発信し続けることが、下村善太郎へ近づく道なのです。

前橋の経済を伸ばしてついで

さあ、経済の話に戻ります。前橋の経済を伸ばす可能性は、次の2点のベクトルです。

①前橋市外からの前橋市への投資、研究センターの誘致、生産現場の誘致をグローバルに呼びかける。

②前橋市の内なる生産性の向上。インキュベーションを進める。

計画 → 政府補助申請 → 実施

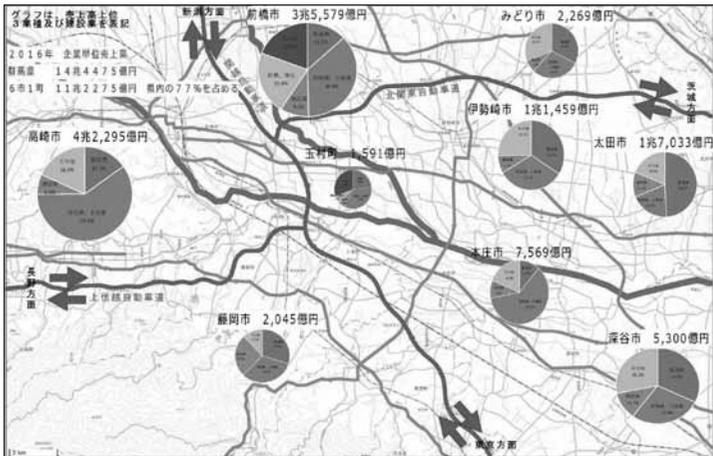
80%補助なら20%の負担

2億で10億の事業を行える

1億円の市民寄附が集まった

外への呼び掛けは、熊本の半導体工場の例で充分お判りでしょう。世界最先端のテクノロジを根底にした生産工場を呼び込めたということは、これからの熊本の経済に大きな意味があることだと思います。ただこれが前橋でできたかと言えば難しかったと思います。なぜならば、台湾企業だからです。アジアへ開かれた土地柄と、九州の空港や港が持つ地政学的ポテンシャルは大きいと思います。そして半導体のような軽くて高額なものは、飛行機の輸送に一番向いているものです。北関東に最も必要なロジステイクスは、飛行場です。それも、貨物飛行場の必要性を強く感じています。人はもうオンラインの普及によって移動する必要が少なくなる時代が来ちゃうのですから。貨物が最優先です。人はチャーター便で充分です。

製造拠点、物流機能、先端技術の研究機能、インテリジェンス産業：様々な前橋がこれから伸びていく分野を定めて取り組んでいきます。産業団地は完売し、ローズタウンの住宅団地も販売好調です。日赤病院跡地は健康増進の機能をもつ多世代の交流拠点「ココルンシティ」に生まれ変わりました。撤退を表明したリクシルの今後の跡地活用も、新しい価値を作るチャンスです。前橋市として積極的に関わって応援していきます。



空港が必要だ！ 保税・通関と食物防疫の物流機能が経済を動かす

私は大きな脅威を感じています。それは圏央道の開通です。私達、北関東及び埼玉北部、これを「上武」と表現すれば、この上武地区は関越道及び北関東自動車道の経済圏です。つまり東京から100kmの円弧にそって立地する経済圏です。しかし今、東京からおよそ50km円弧に沿う圏央自動車道の開通が大きなポテンシャルを持ち、私達のライバルとして立ちはだかっています。その地図がこれです。

北関東道沿線は、立地型メーカー物流型、そして圏央道沿線は広域配送型、さらに外環道及び臨海部は港湾、飛行場を活用した国際物流の特徴が見えてきます。果たしてこの住み分けで上武エリアはいいのだろうか。新



【整備イメージ・効果】



【スケジュール】



を結ぶ合理的なロジスティクスの実現です。新潟よりもっとマーケットに近いこの上武に経済資源を集め、ここからリテール配送する仕組みだつて充分に可能なはずです。新潟港でコンテナを降ろす必要がなく、トレーラーに乗せたままコンテナが前橋を目指すのであればどうでしょう。日本で最も快晴率の高い上武地区で、荷捌きまで含めた通関保税、食物防疫ができるのであれば、上武に新しい陸の港をもつてくることはできないのだろうか、そんなチャレンジが沸き上がってきます。

上武は空と海と陸の交通ハブの柱、 まずは小規模空港からスタートしては？

東京都は平成27年の調布飛行場周辺での航空機墜落事故以来、調布飛行場における自家用機の運航を自粛しています。今後、小型航空機によるエグゼクティブのグローバルな移動の需要が拡大する中、首都圏には小型航空機用のスペースがなくなってい

ます。場外離着陸場ではフライトクラブ、航空関連の大学が立地しています。ブッシュレーンの活用とドローンとの乗り継ぎ、あるいはJ-R新幹線との乗り継ぎ、そして関越や北関東との連携も大きな可能性を持っています。それが可能なのは飛行機、船以外のハブをすでに構築している上武エリアなのです。この未来に向かって動き始めた自治体は多い。大分県の県央飛行場のように、場外離着陸場を格上げする取り組みが行われています。奈良県五條市のゴルフ場跡地を活用し、最新輸送機であるC-12の離発着が可能となる2000m級滑走路整備を20年計画で構想を発表しています。

※奈良県大規模広域防災拠点整備基本計画概要より

<https://www.pref.nara.jp/secure/250542/daiikibo-plan-summary.pdf>



災害支援は地盤、交通ハブ機能…上武が最適だ

首都圏を見ると、超過密空港である羽田、成田の両空港だけでは、物資輸送のための航空機の駐機もおぼつかない。茨城空港(百里基地)や下総飛行場、横田基地、厚木基地では自衛隊機、米軍機の離着陸が行われ、物資輸送が行われるものと想定される。緊急時の物資輸送では、北関東エリアが空白地帯となる。自衛隊の防災機能との連携も注目すべき観点です。

航空産業は大きな可能性を持っている

「ぐんま航空宇宙産業振興協議会」を御存知でしょうか。群馬県には航空宇宙産業の素地があります。群馬県が航空宇宙分野の産業振興を目指して、県内企業の新規参入や販路拡大を支援する組織「ぐんま航空宇宙産業振興協議会」を設立したのは6年前の平成28年。技術力と成長分野を結びつけ、経済の活性を目標にしています。中島飛行機を源流にするスバル（富士重工業）、IHIエアロスペース富岡事業所、ミネベア松井田工場、明星電気（伊勢崎市）など関連企業の拠点が現存します。中堅・中小企業でも、航空宇宙分野を手がける企業が多く存在するのです。先日、埼玉北部の首長さんと意見交換をいたしました。彼は「飛行機の特種部品を作っている会社があるんだ」とお話しされました。これによって上武が一体化になる気持ちが湧いてきます。

成田空港は日本一の漁港、食糧となる魚類の70%以上は養殖

航空貨物輸送に適した品目は私達のこの上武エリアにはたくさん存在しています。微少な精密部品もあれば、あるいは養殖うなぎ・ヒラメ、一粒が500円にもなるようなイチ

ゴ、ブルーベリー、果樹など小さくても高付加価値のものはいくらでもあります。そしてまたそれらを生産する力もある。重要なのは販路です。上武から世界に向かってマーケットを開いていくためには航空貨物輸送は必要な能力です。生産者もこれからは物流業界では収益率の高い品目を中心に、プロダクツの市場シェアを高めていくという目標も生まれてきます。生鮮食品、生鮮魚介類、医薬品、移植用臓器、美術工芸品、花き、動物（ペット、競走馬など）緊急医療物資（国際的な機関で標準化）データセンター関係、新しい産業を創造しましょう。



ヒラメ 環境技術研究所



イチゴやよい姫



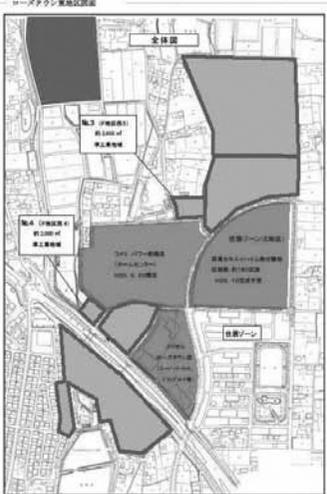
ウナギ養殖 ジースリー



JA前橋 オレイン酸牛州牛

「上武道路」と名付けた17号バイパスはまさに上州と武州を結ぶ

ローズタウン前橋の巨大な住宅団地開発です。もう計画が始まってから30年近くになりますね。たくさんの地主さんが大切な田畑を前橋の未来の住宅や商業開発ならば、とお預かりして始まったこのローズタウン計画も、いよいよ完了を迎えようとしています。商業開発そして住宅開発、最後はなんとザスパクサツ群馬の練習会場を、メインスポンサーであるカインズ社からのふるさと納税として、競技場をプレゼントしていただきます。前橋から深谷を結ぶ上武道路(17号バイパス)の車の窓からこの成果の全貌が見えるでしょう。



この図の左上部分はローズローズタウンとは別の計画です。地元の医療や福祉を明治時代から取り組んできた積善会【創始者の一人は初代市長下村善太郎】を母体とする「前橋あそか会」は、CCRCの理念で建設する福祉健康維持機能の施設群の建設を目指し、群馬県から農業施設を買い始めています。

広大な日赤病院、前橋病院の移転後の跡地約束通り健康増進の街に変えた

日赤跡地の利用に関しても、市長がきちんとビジョンを掲げることが大切だと感じました。日赤病院の移転が決定し、今までお世話になってきた皆さんに対し、「日赤が無くなる」と住民説明会で伝えたところ、大変残念がられました。当然だと思えます。だって今から100年も前、地域の方々が土地を寄付してこの病院ができたのですから。そして長い



間、ドクターヘリコプターの爆音や救急車のサイレン、通院患者さんの渋滞などご不便をかけてきたのに、「さよなら」の一言では怒るのも当然です。そこで山本龍は勝手に、「日赤病院跡には日赤病院以上の健康増進と集いの場所を作ります」と発表したので。今度は日赤から怒られました。「なんで日赤の跡地利用を市長が決めるんだ。跡地は全部、市役所が買うのか」と。買えるはずありません。1万坪です。けれども私は「CCRCを作る」と言い続けました。Continuing(継続する) Care(介護) Retirement(高齢者) Community(集いの場所)です。高齢者も障害者も子ども



CCRCの理念が広がっていく

日赤跡地から離れた前橋市の北、上武国道の沿線に前橋あそか会（福祉団体）が、まさにCCRCの理念を体現する施設を建設中です。この会の理事長さんは「日赤跡地のチャレンジを聞いて、同じ理念で障害者や高齢者、地域の人達を支えてみたいと思っただ」と話されています。理念は響く。なぜなら、言葉を知らなければその言葉を持つ理念が広がらないのです。山本龍は妄想（本人は理想だと思っていますが）を語ります。でも、その妄想も、それを共有した人達が動いていけば「理想」に変わるのです。概念は言葉ですから、語ることによって初めて共有できるのです。



も、みんなが誰かと支え合って暮らせる街をつくると言い続けた。その結果、跡地を高い値段でデベロッパーが買ってくれたのです。理念ビジョンが企業を動かしたのです。ビジネスの社会的な意味を共有できたのです。私が黙っていれば日赤は安い値段でただの分譲地として切り売りされたかもしれません。確かに売れない土地ではないと思います。でも、社会価値のある土地になったのです。CCRCという価値を生んだのです。そしてこの理念に応じた人達が集まってくれたのです。商業施設として参加された15社（フレッセイ、無印良品、マツモトキヨシ…）も、皆それぞれが高齢者や障害者を元気にするサービスを心掛けて下さいました。だからビジョンは尊いです。特にルームスという不動産会社は、日赤跡地ではなく、この周辺の駐車場の借り手を失った駐車場や空き家のオーナーに働きかけ、新しいイノベーションをかける不動産事業を始めました。日赤跡地に生まれたCCRCという新しい価値がこのエリアを再生するのです。

「対立より補完」とのビジョンを持って吉岡町との連携



吉岡町との連携によって、7年かけて関越自動車道のスマートインターチェンジ大型化工事は実現できました。赤城山の裾野ばかりでなく、榛名山の裾野も前橋です。そしてここに新しい大型インターチェンジを作ることによって、ロジステイクス前橋という新しい力を生み出すというビジョンです。もう一つは、近隣自治体と補完し合うというビジョンです。「対立より補完」そんなメッセージを込めて、私は吉岡町と共同でこのインターチェンジを進めてまいりました。このインターによって、吉岡町では大型商業施設の開発が進んでいます。前橋では20ヘクタールもの巨大な工業団地の建設をいよいよ始めようとしています。インターに直結する工業団地、これは新しい価値を持つ企業を呼び込むはずで。すでに世界的な技術をもつ企業からも引き合いが来ているということだけ報告しておきます。新潟と東京の真ん中との立地を活かします。

投資したくなるまちへ、ライバルは世界



何度も言いますが、前橋が個性的な町だからこそ、前橋市への投資が生まれ、経済が回っているのです。どこにでもあるような普通の街だったら、別に企業は前橋を選ばないはずで。固定資産税に個人市民税、法人市民税が前橋市の収入です。この収入を活用し、経済を刺激しました。「税収を増やしていく」この景気循環が、前橋では回り始めています。企業が前橋を選ばなければ、法人市民税が伸びるはずはないし、そこでの雇用が伸びなければ、法人市民税が伸びるはずはありません。そして市民がここで経済活動を行なわなければ、固定資産税が増えるはずはありません。だからこそ、前橋に投資したくなる価値ある都市へ変えていくのです。私は取って言います。「前橋の目指すまちは日本にはない。ポートランドかメルボルン、サントアントニオを目指すんだ」と。



世界の街並みに負けないまちをつくっています。今までの考え方を打ち破って、我々はモデルを目指しています。怒られるかもしれませんが、金魚が泳いでいる池も、昇水が不思議

なモニュメントも、埴輪の馬のモニュメントも、前橋のアーバンデザインの中で再構築されます。川面のテラス席に人々が集う雰囲気、そして川に降りてカヌーを楽しめる新しい水との触れ合い空間、水で遊べる文化を作っていくのです。街の中で文化です。街並みを変えるとそこに若者が来るんです。ライブハウスフリーズが帰ってきてくれました。ありがたいです。オーナーの下平さんは「単にライブハウスが前橋にできるのではなくて、新しい音楽文化を前橋中に生み出していきたい」と私に話してくれています。新しい若者音楽文化を作れるチャンスだと皆で応援しましょう。



この写真を見ると「あれ、前橋かな」と思われますか。でもここは、全米で最も人気のあるオレゴン州・ポートランドです。実はポートランドには、アーバンデザインという建築上の約束事があるのです。景観形成の決まりです。シャッターを閉めることが禁止されているのです。そして店内に小さくても必ず電気をつけるのです。シャッターも店内が見えるように蛇腹シャッターです。ポートランドは通りに面した店の窓のサイズ、そしてテラス席の設置などが全部決められているのです。皆がルールを守っていけば、まちが統一された景観に変わっていくのです。これを参考に前橋もアーバンデザインをつくりました。そして少しずつ夜の街並みを明るくしようとしています。街中を流れる川を市民の憩いの場所に、サンアントニオを目指して、広瀬川の川面も変えています。私達は

演奏するだけではなく、ミキサー技術や照明、音楽プロデューサーなど音楽を作る人、つまりクリエイティブな人を育てていくのです。だからこそピアノだって広瀬川に置くのです、駅ピアノ、まちピアノ、川ピアノ・・・みんなが音楽の文化を発信できる街をつくる。これが変り者の前橋らしさでしょう。街中の変化が共鳴し、増幅し、響きます。



馬場川も民間の都市再生推進法人、「前橋デザインコミッションMDC」によって、改修工事がいよいよ始まります。河川改修の土木工事まで民間の法人が手がけるのです。たぶん日本で初めての民間による公共空間の整備でしょう。市民の手で面白いまちが形作られる。公共事業って、普通は国土交通省から自治体が補助をもらって、残りを税金で賄って進めるのです。けれども、前橋の場合は、民間が直接、国交省へ補助を申請します。そん

なあり得ないことを実現した、これも官民共創の妄想の結果です。でもこれってとても合理的です。川面を綺麗にしたいと思う人、遊びたいと思う人、商売をしたいと思う人……すべて市民です。使うのは市民なのだから、使う人に使いたいような工事をしてもらう、使いたいような空間を作ってもらおう。これってよく考えてみれば当たり前でしょう。市役所は、市民には工事は任せられないと思っていたのでしょうか。とんでもない、使う人がやる方が無駄がない。私が「市長が不要になる」と前述した根拠です。こんな市民や市役所以外の善意や知恵を信じれば、必ず行政の補完者は現われます。

若手職員が頑張っているまちづくりアワード受賞

まちづくりアワードは、国土交通省が都市における種々の課題解決や良好な環境の創造、地域の価値向上を図る先導的な取り組み、新技術を活用した先進的な取り組み、従来に無いアイデアによる魅力的な取り組みなど、まちづくりのあらゆる取り組みの中から特に優れたものを表彰するのです。前橋市アーバンデザインを策定し、遊休不動産調査から始まり、所有者に積極的に働きかけ、事業オーナーとのマッチングにより活用を図る取り組みを進めてきました。



民間投資による 民間のための まちづくり

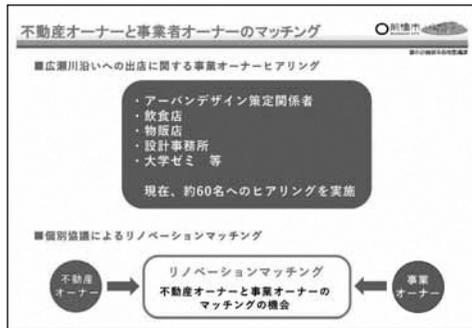
街のアシスタントを担うこれらの取り組みを、前橋版リノベーションまちづくり『マチスタント』と名付けて、「第一回まちづくりアワード」で特別賞を受賞しました。街は日々変化していて、知れば知るほど面白くなります。どんどん遊びに来て下さい。若い職員がいろいろな思いを持ってまちづくりに取り組んでくれる。その姿を市民が応援してくれてます。頑張ってくれる。ほんとにいいサイクルが回り始めているなと思います。

ビジョン十補助金十規制緩和十営業努力(マッチング)

道路、歩道、河川は予算があれば綺麗にできます。石畳の歩道にだってできます。でも道路だけはキレイになっても、周囲が廃墟のような街並みでは全く意味がありません。街並みを更新するのは民間の力です。もちろん空き店舗改装の際、リノベーションにも補助が

あります。いったんは補助で出て行っても、固定資産などの税で戻ってきてくれればいいのです。お金が回用に、市も積極的に投資して、民間を応援します。

綺麗になった通りの空き店舗で商売をしたいという人を紹介する「マッチング事業」までやっています。でもこれは民間の不動産の事業者や金融機関の融資担当の役割です。ぜひ賑わい創出を手伝ってください。これが前橋市役所は持っている空き店舗リストです。



こういう空き店舗で「おにぎり屋やりたいんだ！」みたいな若者がいたら、是非紹介してください。若者も、空き店舗のオーナーも、街が賑わって皆が善かれに。

日本銀行の前に完成したマンション、しのものめ信用金庫のオフィス棟、新しいレジデンスやオフィスがどんどん完成しています。前橋市に人やオフィス需要を

呼び込んで、皆の経営を応援していくことが大切な街づくりの応援につながります。私はそれが市役所の役割なんだろうと思います。もちろん、市役所が低所得者のための公営住宅をつくることは必要だと思えます。ただもう前橋は5000世帯の市営住宅を管理し、その20%が空室です。むしろ市営住宅は更新やリフォームにとどめて、民間のレジデンス開発に利回りがあるような仕組みを応援し、経済を回すということが優先だと思っております。公共事業で住居はもとより、ホテルや商業施設などをつくる時代は終わったと私は考えています。やるのは民間の経済を回すための仕組み作りです。前橋で起きているたくさんのチャレンジが、ビジネスとして成立する支援が、経済のサイクルを回すことに繋がるのです。



JR新前橋駅上前上毛新聞再開発



県庁通り 日本銀行前のマンション



JR前橋駅前の再開発

市の優良建築の助成を受けてまちが動いている

先月、「FMぐんま」新社屋が完成しました。新しい公開スタジオを含め、中庭も「しのめ信用金庫」さんと連携した市民交流の場所が提供されます。17号のすぐ脇、これから「スズランデパート」を含め、千代田町が再開発をされるそのエリアに生まれた新しい居場所、街に大きな意味をもたらすはずです。こうして街の外形が変わろうとしています。前橋市役所としても、少しずつの補助を出しながらそれを促してきたことの成果だろうと思います。ただ問題はこの中身を担う、開発の主体である民間事業がここにどういう価値を作ってくれるのか。外形的なことは前橋のアーバンデザインによって一定の担保がされるはずですが、ソフトについてはまさにその主体にお任せするしかありません。そして賑わいが生まれ、前橋市に税収という形で返って来ます。



価値が勿体ない、地回りが効かないから放置されている

これは昔のキャバレーの写真です。もう30年以上ここに廃墟として建っています。所有者の人も諦めておられるのかもしれない。一歩進

めるのにはどうしたらいいのか。せっかく行政が広瀬川を綺麗にしたのに、その傍のビルが危なくて歩くこともできません。市民にも立ち上がっていただきたいと願っています。

市街地の駐車場が変わらねば



中心市街地の住宅地図を広げ、駐車場を塗ってみました。どれだけ駐車場だらけなのか
がこれですぐ理解できるはず。しかも結構なお値段です。
市役所の近所は1万2000円。通勤する方々には痛い出費
です。事実、前橋の市街地では、オフィスの借り賃よりもス
タッフやお客様への駐車場の出費の方が大きいという馬鹿げ
た話が生まれています。オフィスはどんどん郊外へ移り、駐車
場コストが街を空洞化させている。そして駐車場自体が必要
性を失っていく衰退のサイクルです。この課題の解決はたっ
た一つです。公共交通を便利にして駐車場需要を減らす。駐車
場を増やして価格競争させるとするのは決して最善策ではあ
りません。SDG'sにも交通を便利にするアイデアです。

駐車場より利回りの良いビジネスを提供できれば建物ができて、そこにビジネスや商売
の場が生まれる。大家さんは利回りが好き、市役所は固定資産税や市民税も貰えるのです。
実はそこに前橋の可能性がある。こんな規制緩和をしています。大切なのは補助金以上に
ビジネスの自由度を上げる規制緩和です。最低限の決まりでいいんだろうと思います。そ
して何よりもアーバンデザインの統一感を持って町並みの中に開発が行われれば、いつか
は街全体が整っていくはず。アーバンデザインも最低限の景観と空間利用の決まり事

国土交通省
新型コロナウイルス感染症の影響を受け飲食店等の皆様へ
地方公共団体等と連携して申請すると
**テイクアウトやテラス営業などのための
道路占用の許可基準を緩和します**

国土交通省では、新型コロナウイルス感染症の影響を受け飲食店等の皆様を支援するための緊急措置として、地方公共団体と地域住民、団体等が一体となって取り組む沿道飲食店等の路上利用の占用許可基準を緩和することとしました。
また、地方公共団体に対しては同様に取り組んでいただくよう要請しています。

今回の緊急措置のポイント

内容
① 新型コロナウイルス感染症対策のための暫定的な措置であること
② 「3定」の前提や「新しい生活様式」の実態に対応すること
③ テイクアウト、テラス営業等のための施設施設の設置であること
④ 施設付近の清掃等に協力いただけること

1 建築基準法改正により、建築確認が必要な
特殊建築物の規模が100㎡から200㎡に引き上げられました
※法定より、200㎡以下の特殊建築物（飲食店やホテル旅館、その他の娯楽施設）は、用途変更時に建築確認の手続きが不要となります。
ただし、用途変更や用途変更の申請は申請書の提出と申請料の支払いが必要で、引換金がかかりますので、必要に応じて、目的と建築基準法に適合することを要します。
用途変更の際においても、用途が変更されるために、所有者の皆様が建築確認が義務づけられます。

2 建築物を安全に使用・居住するためには
所有者の皆様が適切に維持保全を行う必要があります
建築物は経年経過とともに、その後の使用状況によっては、建築物に荷物が積まれたり安全な状態がでない場合や、腐食や劣化の進行により火災の原因となる場合、本来定められた基準を定めないような状態になってしまう場合があります。
建築物の維持保全には、常に建築物の維持保全を行うに当たっていただく必要があります。

です。その約束の中で、それぞれが開発者がそれぞれの空間で自分の自由な表現で街並みに関わってきてほしいと思います。10年後、20年後、この街は素敵な街並みを持つことになるでしょう。それが私の言う「日本で珍しいまちづくり」だということです。

交通の革命 Maasマーズに前橋は全国の先頭に立っている。でもスローでスリッパ

マーズとは誰かを助ける交通サービスという意味です。車椅子の人に車椅子のリフトが付いてないタクシーは助けになりません。バス停まで歩けない人にバスは意味がない。マーズは、交通を一人ひとりにニーズに合うように提供する仕組みです。そしてその前橋は、マーズマイナバンパーとスイカによる決済と組み合わせて使いやすくしています。いろいろなシステムとつなぎ合わせて、なおかつモビリティも様々なものを活用しています。自転車、AI乗合タクシー、マイタク、自動運転バス、そして最近では、高齢者のデイサービスの送迎車両をタクシーに委託し一元化するというチャレンジも始めました。また、15分間隔バス運行など、スマートモビリティチャレンジも積み重ねてきました。

「まちづくりは交通から始まる」これが私たちの考えです。駐車場ばかりの街の再生には交通改革が必要です。免許返納した高齢者や授産施設に通う障害者を支えるのも交通なんだ。しかも少し時間は掛かっても、タクシーより安くバスよりは早い交通をドアトゥドアで運行することが前橋のもっとも大切な政策です。「みんながスローで居られる社会がコストがかからない社会」だということを、どうぞ共通の理解にしませんか。

ゆっくりした時間を楽しめる、スローシティの時代が目の前に来ている

感染症の世界的なパンデミックやオンラインによるリモートワークの普及が私達の追い風にもなっています。密閉された空間ではなく、広大な赤城の麓に大勢の方々が新しい幸せな暮らしを求めて移住されています。その原動力の一つにスローシティがあったと思います。

2017年、前橋は「世界国際スローシティ連盟」に入会を認められました。いろいろな環境基準が審査された結果です。日本では気仙沼市と前橋市が参加しております。国際スローシティの本部は、人口5万人程のイタリアの古都・オルビエートです。スローシティ運動はスローフード運動から始まりました。街並み自体も環境も食も地域の風土を大切にす



るといふ理念です。このオルビエートは前橋市にとって関係の深い街でした。

前橋市出身のイタリアでのワイン栽培家、徳永絢さんのご縁や、萩原弥惣治元市長の時代に、姉妹都市として連携が始まり、「だんべえ踊り」の皆さんが、オルビエートの教会前広場で踊った友好があります。さらに前橋は農業都市、デリカ都市として食品に係る街でもあり、スローフード活動も盛んでスローシティへの連携はとても自然なものでした。でも前橋市にとってのスローシティとは、観光を呼び込む意味合いよりも、もともと前橋に存在する食や文化を大切にしながら、それを新しい価値にしているというものでした。ま



まだまだ始まって4年、さらにはコロナ禍で様々な障害のある中で、決して市民運動として深化してきているとは言えません。けれども、様々なスローシティらしい活動が行われ、そして就任した移住コンシェルジュ・鈴木正知さんを中心に、たくさんの移住者をここに迎えていることも、このスローシティのビジョンの力だと思えます。

共愛学園前橋国際大学の鈴木鉄忠ゼミの若者達

皆さんが赤城南麓の古民家の所有者の方々と協力して、学生ゼミのフィールドワークの場所に古民家を活用しています。これはその時の写真です。「スローシティ」が無意識のうちに広がっている。しかも若者たちの嬉しい物語が始まっています

鈴木さんの著作である共愛学園前橋国際大学ブックレットが、移住コンシェルジュの鈴木正知さんのSNSにアップされましたので皆さんに共有します。



「前橋市のスローシティパーク思考。それは一人一人の暮らしの中にパークを持つこと。それが叶うのが前橋市スローシティ、我々がこれまでやって来た取り組みの一部を本編の中で紹介頂いている。鈴木鉄忠さんとはこの先に有る物語を一緒に創り育てて行きます。どんな旅になるのか？楽しみしかない」

鈴木正知さんの移住相談のグラフも添付しておきます。2022年がどのような結果を迎えるのか。その報告が楽しみです。

スローシティとは？ そいつの四つのスローの展開

- 「寂しい山村」から「時間を楽しめるスローシティ」へ
- デジタルの合理化で生み出した時間をスローに使う
- 移住案内人とスローのビジョンに結ばれるご近所さん
- コロナ禍だから空疎な空間への移住と投資を創造する

粟を宮中へ、スローシティは効率や採算性から遠い考え

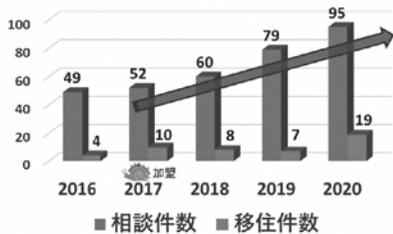
儲かる、儲からないに関わらず、ここを幸せになる場所と思つて来てくれる方々が、スローなビジョンで結ばれるコミュニティです。大きなスローシティ施設があるわけではありません。でも皆の心の中に赤城の天地や風土を大切にするといい気持ちが生まれたということが価値です。赤城の圃場で天皇陛下が斎主される新嘗祭のための『粟』の収穫を行う儀式が8年も続いています。献穀粟拔穂祭(けんこくあわぬきほさい)と言います。小学校の子ども達が編み笠姿で手伝っています。粟を栽培したつて儲かるものではありません。

むしろ、通常の農作業の邪魔です。でもこの役割を農家が毎年、担ってきた気持ちこそ、赤城の風土なのです。デジタルの合理性とはまるで真逆の精神性をここに感じています。

スローシティをキッカケに、担い手がどんどん赤城に来てくれた。彼らはこの前橋の労働力になる場合ももちろんあります。養豚場やあるいは食品工場、レストランなどに勤務



される方もいます。でも一方、自分たちがこの赤城でやりたいことがあるから来た人は、仕事を自らつくり上げています。新しく出来る道の駅の隣で農地を借りて枝豆を栽培するという青年。彼は元商社勤めの方です。自然農業がやりたくてここに来て枝豆を育て、そして採れたての枝豆を鍋で茹でて提供するという仕事を、道の駅の隣でやりたいと頑張っています。



不思議な職業が集まってきた

自伐型林業の青年は、少しずつ伐期を迎えた木を切り出して、生計を立てています。一日一本だけと決めている。そんなゆっくりとした林業が彼の手で行なわれています。そして彼の副業は薪を作って販売すること。テントサウナで皆と一緒に楽しむ場所を作ること。そのサウナに必要な「ヴィヒタ」という白樺の束も副収入です。通信販売では束



6700円。彼はこれを3000円で販売します。いろいろなチャレンジャーがまだいます。元自衛隊OBが行うサバイバルゲームセンター。池袋のフクロウカフェからコロナ禍の中、赤城に避難してきた30羽のフクロウ達。ドッグトレーナーの方は赤城で犬ぞりレースのインストラクターをされています。綿花栽培をするという若い女性は、自ら栽培した綿花から取った綿



糸で服を作ります。地面飼いのニワトリの卵の販売をする夫妻。そして世田谷から引越して来られたシェフは、自分で作った野菜で料理を提供しています。たぶんここに書き切れない方々が今、赤城山を「幸せになる場所」として活動している。そのことだけは皆さんに伝えたいです。それは赤城がスロースティイだからです。

突然ですがスノーピークの話です

今、群馬県の赤城県立公園の中で、スノーピークに係るプランが進もうとしていることは新聞報道でご存知だろうと思います。スロースティイとデジタル田園都市という前橋が目指している二つのベクトルと合致している点は大切です。デジタルの力で生み出した余暇を、自然の中で過ごしていこうとい

う意味では、まさに前橋市と重なるビジョンです。新潟県の燕三条にあるスノーピークで開催された「赤城山のこれからの動きについて」のパネルディスカッションを見学に伺いました。スノーピークが赤城でチャレンジしようとしていることは、自然の中だけのキャンプではなく、オフィスの中の空間、あるいは都市の中の空間を結び合わせるという新しいコミュニティ作りです。例えば新しいデジタルを通じたオフィスと緑の向こうとの交流とか、あるいは殺伐としたオフィス環境の中に緑の空間を作り上げていくような企画かどうか、そこにあるのは最終的には人間性の回復だと感じます。つまり幸せになるということです。小沼の神秘的な佇まいや覚満淵の植生、守るべきものはそっとして、その自然の中で人の精神が再生していくような取り組みです。デジタルとスローは共鳴するものだということを、私もスノーピークさんの展示会から感じたのです。

デジタル+田園都市は政府の方針、 前橋のデジタル・グリーンシティと同じベクトル



デジタル田園都市構想を語る時に、前橋が何をやっているのかを皆さんに伝えなくてはなりません。まだ形で見せられるものが少ない。自動運転バスも、中央駅からJRR前橋間で運行しているが、完全に手放して運転しているわけではない。なるほどと思ってもらえるのは、このトムスのレーシングシミュレーターマシーンでしょう。このシミュレーターの開発プロセスは次の通りです。①レースのトレーニング②ドライバーの脳内信号リサーチに転用され、前橋工科大学で脳内電流解析装置化に向かって動いています。前橋市役所の市民ロビーで市民体験を行いました。本格的



迅速な救命活動に繋げることで命の安全につながります。



顔認証で既往歴や持病を瞬時に把握し、



他にも行政からの定額給付金などを必要な時に必要な方へ瞬時に給付することもできるようになります。



平日の日中に、銀行や市役所に行けずに手続きができない。

改めて皆さんに「前橋はデジタルで、どう変わるのか」お伝えします

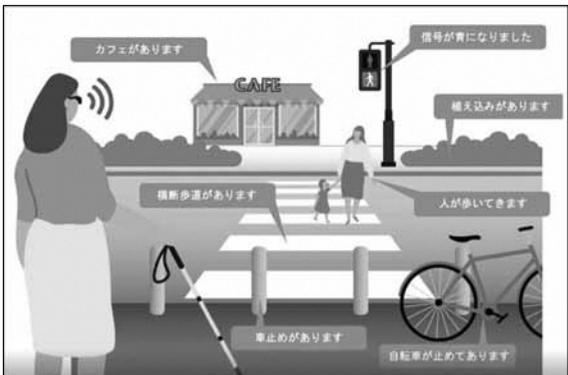
事例を説明しながら、前橋のデジタル未来の形をお伝えしたいと思います。なぜシミュレーターマシーンがあれば交通事故が無くなるのか、それは交通事故の原因を究明できるからです。シミュレーターの中に映し出らされる前橋のデジタル映像。脳波を測定しながらこの中で運転することによって、事故原因の究明が可能になるのです。そしてその原因は道路設計のミスなのか、ドライバーの運転ミスなのか、その運転ミスの理由は何なのか、

様々な原因を究明して、その事故原因を解決するのです。事故が減れば保険会社は喜びます。そして保険料金が減額出来れば、私たち加入者もお得です。そして事故原因を補正できれば、高齢に関わらず安全な運転が可能になるということなのです。これを前橋が率先して研究し、全国に広げる役目を引き受けました。そうしてデジタル田園都市に指名されたのです。そのため活動費として政府から予算が交付されたのです。デジタルを使ったいくつかの便利になる事例を紹介します。このイメージ図のような事例の実現に向かって前橋は全国モデルを示します。

脳波やDNAの解析こそ、課題解決の宝箱、 景色が聴こえるプロジェクト

人間の行動は脳内の電気信号DNAの配列によって管理されます。人間の脳内神経細胞は2千億個、そしてDNAのCDに入り切ります。だからこそ、それを解析するテクノロジーは人間の能力を補正してくれます。DNAの解析によって、乳がんになる可能性が高いと判定された女性が、切除手術を受けたニュースのように、人間の病気を科学で予防できるという時代が来ているということなのです。ドローンや自動運転などは、デジタル社会の入口でしかありません。

前橋市が担うことになったのは、人が困っている問題をデジタルで解決することです。デジタルを活用することは、人間の能力の再発見につながるからです。その

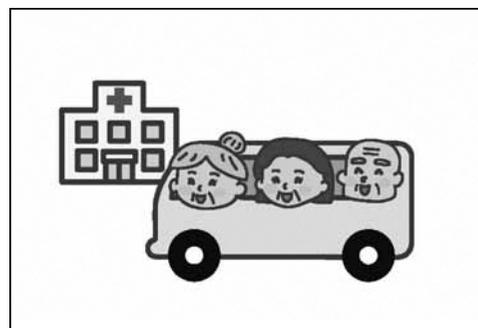
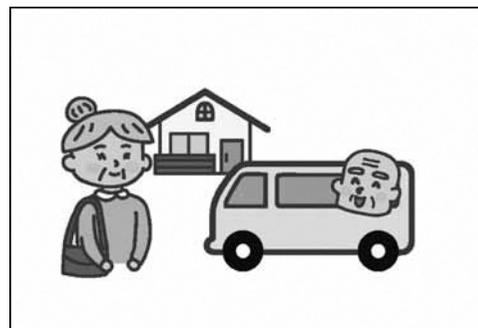


象徴が今、前橋の行う視覚障害者への白い杖に代わる新たな情報支援の形です。「景色が聴こえる」というメッセージは、物理的・肉体的な制約からの解放という言葉で、このデジタルの力を示します。道路の状況について、メガネに取り付けた微小カメラから読み込んだ情報をAIが分析し、音声によって視覚障害者に伝えるというものです。これらは数年で大進化するでしょう。

AI乗り合いタクシープロジェクト、個別最適化というサービス

前橋が行おうとするタクシーのAI乗り合いも、デジタルだからできるのです。タクシーに同一方向へ向かう利用者を乗り合わせて、マイタクシーも合わせることで低料金化することも可能です。しかもタクシーですから目的地までドアトゥドアです。

言葉だけでは皆さんに理解していただけないと思います。そこで事例でお話をします【図上】免許を持ってないAさんが温泉に行くこうとしてタクシーに乗っています。タクシーの配車センターに同じ方向の病院に行くBさんと買い物へ行くC子さんから配車依頼がありました。【図中】タクシーは少し遠回りですがB子さん、C子さんを同乗させてそれぞれの目的地に送る【図下】



講演で私がこの様に説明しますと皆さんは簡単そうに感じるはずですが。それなら人間のオペレーターでもできるだろうと思うかもしれませんが。しかし、お客さんが車椅子だったり車椅子が載れるキャリアカーしか配車できません。これが何十、何百人から電話がかかってきた場合、これらのベストな近道を選択する手法がタクシーの配車係では困難で

しょう。こんな複雑な道順、車両選択、到着時刻を瞬時に回答できるのはデジタルしかありません。しかも、あらかじめ皆さんの属性(車椅子利用者または聴覚障害、視覚障害であるなど)も加味することが可能なのはAIだけです。つまり電話で細かなやりとりが不要ということです。34万の市民の属性データ(家の住所、車椅子等)すべて覚えていられる人などいるはずはありません。

デジタルの計算機のことをAIといいます。電子知能とも呼ばれるAIが活用できるようになれば、最も便利で最も合理的な道順と組み合わせで皆さんを目的地まで安く早く届けることができます。しかも一人ひとりに合ったクルマを配車することが可能です。

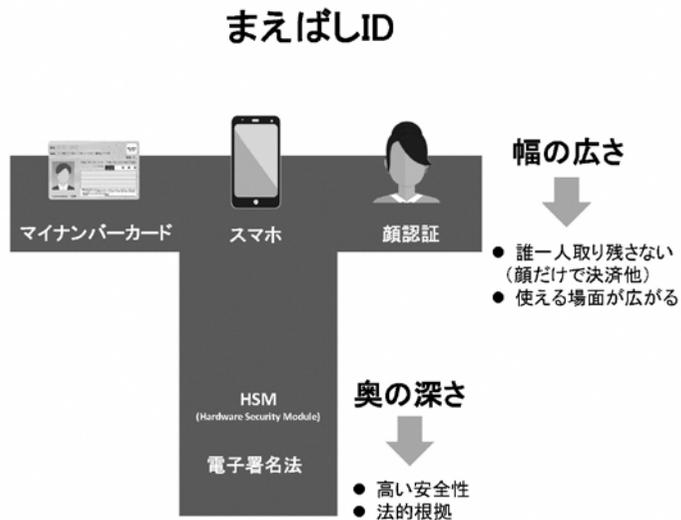


デジタル田園都市国家構想で、前橋は注目を集めています。関心を持った団体が前橋に研究センターを設置し、研究員派遣などの動きが拡大するでしょう。その受け皿となる前橋工科大学や群馬大学、高専を中心としたアカデミックな共同研究体制の整備が急がれます。そのためにも教授人材の獲得や、学校・研究施設等の充実は急務です。前橋工科大学と連携事業者の間では、すでに様々な研究が始まっています。企業の呼び込みばかりではありません。様々な観点から、この事業の推進が前橋の街づくりにも大きな可能性を与えてくれます。ますます前橋が面白くなってきました。

議会質問でも、データ連携の危険性についての意見があります。もともと前橋市がデジタル田園都市構想に採択されたのは、以下の2点が信頼されたからです。

① 連携のプラットフォームの安全性

googleが他の安全性の低いアプリとの連携を拒否している現象は、私達の考えとも重なります。前橋ではデータは個人が所有し、その連携を「まえばしID」という仕組みで行う。しかも連携をする対象はレギュレーションで安全性が担保された相手のみです。その基準を担保するシステムとして、損害保険会社のセキュリティscoredというシステムが常に連携先の安全性を監視しています。「なりすまし可能」システムとは、絶対に前橋市は連携しないのです。



②まえばしIDの安全性

まえばしIDが、他のIDと違い、電子署名法の政府認定を受けている唯一のIDであるということです。まえばしIDによるデータ連携は安全です。あくまでも、安全を前提とした上での構想です。

「物理的、時間的な制約のない世界」を作ります。健常者も障害者も全く関係のない社会が生まれるということです。デジタルの未来では、物理的、時間的な制約を誰もが乗り越えられる社会があると信じています。

全盲であつても自分の意思でまちを歩ける社会が実現する。障碍を持つている人が自分のデザインした作品によって収入を得

る社会が来る。NFTのアート美術館をメタバースに運営するのです。表現者としての新しい価値を生み出せるのです。

市役所だけで、税金だけでDXなどできません。市民と連携して、デジタルを得意としている様々な企業と連携して、同じ問題を抱えて解決したいなど思う全ての自治体と連携して、共に作っている共創の理念です。だからこそ、私は「皆で一緒にやっつこう」「市民や自治のあり方を変えていこう」というメッセージを語ってきたのです。細やかなテクノロジーの説明をすればとてもこの講演時間では足りません。アルゴリズムや通信プロトコル等の深いテクノロジーの知識を、私自身が持っているわけでもありません。

自治体ガバメント。いやそんな大袈裟なものではなく、「ご近所さん」ネーバーズの一員として悩み、何処を改善すればもっと皆を支えられるか、皆を苦しめる課題から解放出来るのかを伝えたいのです。それが私の役割です。ただ、信じて進んでくださるか、立ち止まるか、それは皆さんが私を信頼しているかどうかにかかっています。信じてくださると私も市民を信じます。

デジタルの力で得られる新しい市民の権利、それがデジタル市民権。それらは今まで乗り越えられない障害として諦めてきた全ての制約から、一人ひとりを解放することでしょう。

デジタル民主主義

デジタルの力で得られる新しい市民の権利
それがデジタル市民権

ご近所さんの悩みは理解できる。
デジタルで社会を「ご近所化」するのです。

世界まで「ご近所」にしよう。

政治に参加できる社会。どんな困難があるか共有化できれば助け合うことが出来る社会。皆で車に相乗りして、安いコストで移動が可能な社会。生まれてからの人生の時間の中でずっと見守られる社会。多様な市民が皆それぞれに自分の幸せへ歩いてゆける社会。そのための道具としてデジタルの技術を使い倒していこう！これが私のメッセージです。

夢の形を語る、すなわちビジョンを語り続けることが、あらゆる動きを誘発する最善の手段であると私は考えております。このような話をお伝えして、皆さんにお別れを申し上げたいと思います。本日は誠にありがとうございます。了